令和６（2024)年度

シラバス

- ３年次 -

科目№	BCS04-3E，BCS04-3R	授業形態	講義	開講年次	３年次
授業科目名	医療倫理学	担当教員 E-Mail	吉本　陵		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	１　単位	前　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学		必修		

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	医療従事者にとってのケアに関わる諸問題を倫理学的な観点から考察する。 本学のディプロマ・ポリシーである「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる人」を目指すための科目である。
学修目標 到達目標	1. 医療倫理学の基本原則を正確に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. ケアを主題とするテクストを正確に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 3. 障害当事者が障害と向き合うことを援助する際の問題を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
対面授業の進め方	講義形式で行う。事情が許せばグループワークを組み込む。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365 stream に動画をアップロードする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1.　ガイダンス・イントロダクション	「ケア」という言葉の意味を調べる。	
2.　生命倫理学の四つの原則	授業内容の振り返り	
3. インフォームドコンセントとは何か	授業内容の振り返り	
4. ケアとキュア	授業内容の振り返り	
5. 患者の痛みに対するケア１患者の痛みを理解すること	授業内容の振り返り	
6. 患者の痛みに対するケア２身体の痛みと心の痛み	授業内容の振り返り	
7. 言語の喪失に対するケア１当事者の視点から	授業内容の振り返り	
8. 言語の喪失に対するケア２障害受傷からの立ち直り	授業内容の振り返り	
9. 障害を受容するということ	授業内容の振り返り	
10. 受容を援助するということ	授業内容の振り返り	
11. 障害受容再考（1）「障害受容」に肯定的なセラピストたち	授業内容の振り返り	
12. 障害受容再考（2）「障害受容」に批判的なセラピストたち	授業内容の振り返り	
13. 障害受容再考（3）「障害との自由」の可能性	授業内容の振り返り	
14. 傾聴としてのケア	授業内容の振り返りと試験の準備	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	学修した範囲について復習を必ずすること	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　３０％	□レポート　　％	□定期試験　　７０％	□その他　　％
	基準等	授業内容の理解度を問う課題を与える。		授業内容を踏まえて自ら考察する問題を与える。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	なし。			
参考図書	適宜指示する。			
履修要件等				

オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目№	FBM12-3E	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	形態・機能学特論生理領域	担当教員 E-Mail	坪田　裕司		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	選択必修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	１年次に形態・機能学で学んだ人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について、さらに詳しく学習し、特に運動生理学と生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 筋運動と利用エネルギーについて説明できる 2. 運動強度と酸素摂取量、心拍数の関係を説明できる 3. 栄養とエネルギー代謝、呼吸と循環について説明できる 4. 老後の身体活動性を維持する機序と必要性を説明できる
対面授業の進め方	教科書中心に講義形式で進めるが、随時課題を配布してお互いに説明し合うアクティブラーニング(グループワーク）時間も取り入れて進める。始めにまとめ資料を配布し、スライド等も取り入れてできるだけ分かりやすく説明する。あらかじめ資料をよく読んで予習し、疑問点を明らかに準備して授業に臨むこと。
遠隔授業の進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 運動と筋（高齢化社会と運動、筋細胞の種類、骨格筋の構造）	形態機能学整理領域 I･II に配布したまとめ資料の範囲の復習	
2. 運動と筋、身体運動の仕組み（興奮収縮連関、運動制御、筋感覚）	形態機能学整理領域 I･II に配布したまとめ資料の範囲の復習	
3. 呼吸と循環、酸素負債（筋の利用エネルギー、クレアチンリン酸機構、乳酸性嫌気的エネルギー酸性機構、好気的エネルギー酸性機構、呼吸商、循環の調節、呼吸の調節、無酸素性作業閾値）	形態機能学整理領域 I･II に配布したまとめ資料の範囲の復習	
4. 栄養とエネルギー代謝、動作と利用エネルギー、(基礎代謝、安静時代謝、RMR、METs、エクササイズ Ex、食品カロリー、身体活動)	まとめ資料の範囲の復習に加え講義課題の復習	
5. 最大酸素摂取量（運動負荷、心拍数、酸素摂取量、最大心拍数、体力、VO2max の測定法、推定法）	まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習	
6. 加齢変化と筋力維持（廃用症候群、トレーニングの原則・効果、運動刺激	まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習	
7. 運動負荷（運動負荷と利用エネルギー、運動の目的、運動処方の設定、リハビリテーションと運動負荷）	まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習	
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　10%	■レポート	■定期試験　65　%	■その他　5　%
	基準等	項目により課題を出す	項目により課題を出す	試験は国試形式および計算問題・文章筆頭問題から出題する	講義への参加度を重視する

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td colspan="2">タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>樋口満監修</td><td colspan="2">栄養・スポーツ系の運動生理学</td><td>南江堂</td><td>2018</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>特に指定しない</td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="5">形態機能学整理領域Ⅰ･Ⅱを履修済みあるいは履修中であること。</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">1 号館 5 階 第 11 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">毎週月曜日　16：20～17：30
※以外メールで調整</td></tr>
</table>

科目№	FCM17-3E, FCM17-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	救急医学特論	担当教員 E-Mail	岡田　守弘		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1　単位	前　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	必修		

教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院救命救急センター及び急性期病院救急科での臨床経験のある教員が、救急疾患の初期対応について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これまで履修した臨床医学各教科の総まとめとなる科目である。 医療機関では高齢者や基礎疾患をもつ患者と接することが多く、患者が目の前で救急疾患を発症することはまれではない。このため、PT、OT、ST も救急疾患に対する適切な初期対応が求められる。本講座では救急患者に対する初期の観察、ケアを中心に解説する。また、本講座では、一次救命処置の実技指導（日本赤十字社救急法短期講習）も行い、本講座修了者には日本赤十字社救急法短期講習受講証が授与される。
学修目標 到達目標	1.心肺蘇生ができる 2.バイタルサインのチェックと評価ができる 3.救急疾患に対する適切な初期対応ができる
対面授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。 心肺蘇生については実技指導（日本赤十字社救急法短期講習）も行う。
遠隔授業の進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1.　なぜ救急医療学を学ぶのか（教科書 p10~11） リハビリテーションに活かす安全管理学・救急医療学（教科書 p12~13） 救急医療学総論（教科書 p64~71）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
2. 救急医療での主な病態（教科書 p72~79）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
3. リハビリテーション実施時の留意点、救命救急・集中治療室でのリハビリテーション（教科書 p86~95）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
4. 高度急性期リハビリテーションの実際（教科書 p96~103）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
5. 在宅での安全管理と緊急時の対応（教科書 p104~111）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
6. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習①（教科書 p112~122）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
7. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習②（教科書 p112~122）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
8. 定 期 試 験	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　80　%	■その他　20　%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td colspan="2">タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>内山靖ら</td><td colspan="2">リハベーシック　安全管理学・救急医療学</td><td>医歯薬出版</td><td>2021</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>特に指定しない</td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="5">一般臨床医学、内科学、臨床神経学を履修しておくことが望ましい。</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">1 号館 5 階 第 15 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">毎週月曜日 10:40～12:10</td></tr>
</table>

科目№	FHW06-3R，FHW04-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域包括ケアシステム・ リハビリテーション論	担当教員 E-Mail	阿部　真二		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念	必　修	1　単位	後期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員（阿部）は理学療法士として34年の臨床業務の中で医療施設・介護施設において急性期・回復期・生活期の理学療法及び訪問リハに携わってきた経験がある。伊藤は初台リハビリテーション等での回復期リハ・訪問リハ・リハマネジメントの経験あり、また老健施設大阪緑ヶ丘での訪問指導を実践中。関本はかなえるリンクでの訪問リハや就労指導・リハマネジメント等を実践中。逢坂は大東市役所での地域包括ケア支援及びリハマネジメントを実践中。本講義はこうした経験を生かして、地域包括ケア・地域リハ支援の講義を行う。
授業内容の要約	学生は、介護保険制度の一環として構築された地域包括ケアシステムとは何か、またその中で実施・模索されている高齢者・障害者等当事者主体の多職種連携・自立支援・リハ職の役割等の総論を学び、次に 3 人の外来実務講師による実践編から、地域包括ケアシステムの中の地域リハビリテーションのあり方と療法士の役割を学ぶ。
学修目標 到達目標	1.地域包括ケアシステムについて説明出来る　2.地域連携、多職種連携とは何か説明できる　3.高齢者･障害児者の自立支援について説明できる　4.地域包括ケアシステムにおけるリハとリハ職の役割を説明できる　5.在宅訪問、通所リハ、介護予防等地域におけるリハ実践を説明できる
対面授業の 進め方	寺山・野村による総論、外部講師３名による講義とグループディスカッション、から成る
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の Teams を使用し、双方向の授業を行う。授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う場合もある。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 総論１；地域包括ケアシステムと地域リハの概略（阿部）	左記を「リハビリテーション概論」「障害者福祉論」「関係法規」等の関連授業との関連で想起し、その概要をノートに記しておく
2. 総論２；地域連携・多職種連携・連携マインドとリハ（阿部）	左記に対して「自分の答」を考えておく
3. 総論３；地域包括ケアシステムー障害児者支援（野村）	障害児 者における地域包括ケアを調べ考える
4. 実践編１；生活期のリハビリテーションー訪問リハ（日本訪問リハ協会　伊藤）	左記についてネットで情報をつかんでおこう
5. 実践編２；通所リハ・訪問リハ・障害児支援の最前線で（かなえるリンクＯＴ　関本）	左記についてネットで情報をつかんでおこう
6. 実践編３；大東市における総合リハ・地域連携のかたち（大東市役所ＰＴ　逢坂）	大東市の介護予防等の実践をネットで調べておく
7, 総論４：共生社会、自助・互助・共助・公助、自立支援、リハマネジメント等（阿部）	1－6の講義を理解しておく
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
8. 総括及びフィードバック（期末レポートの結果解説等 ）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト ％	■レポート　100％	□定期試験 ％	□その他 ％
	基準等		「レポートの課題」は７回目の授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて独自性も含めて深く考察しているかがポイント。可能であれば手書きを要求するので、文章や文字も採点対象にする		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		適当な著作がないので特に定めない		
参考図書				
履修要件等	３年次臨床実習に参加可能な学生が望ましい			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館１階 理学療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00	

科目№	FHW07-3E，FHW06-3E	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	障害者福祉論	担当教員 E-Mail	野村　和樹		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念	選択必修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	障がい者の生活実態・障がい者福祉の歴史・障害の概念といった障がい者福祉の概要を解説する。また、近年「障害者の権利に関わる条約」を批准したことに伴い、法令をはじめ通達、制度等は大幅に転換した。それをふまえ障がい児・者に関わる様々な法制度、支援の仕組み・実践の現状と課題について講義する。 社会福祉学で学修した内容が障害者福祉の制度施策にどのように反映されているか確認できる。この科目で学修することで、地域における包括的ケアに多職種と連携が図れる また、障害の有無に関わらずスポーツ活動ができるよう、障害に応じた競技規則や実施方法についても解説したうえで、合理的配慮について理解を進める。
学修目標 到達目標	1. 障害の概念・障害の特性・障がい者の生活実態が把握できる 2. 障がい児・者に関する法制度の知識を習得し、支援について理解できる 3. 障害のある人たちの人権と尊厳を尊重する支援のあり方を療法士として模索する姿勢が習得できる 4. 障害に応じた競技規則や実施方法が理解できる
対面授業の進め方	原則としては講義形式で行うが、療法士および障がい者スポーツ指導員としての支援のあり方を模索できるよう、グループディスカッションの時間を設ける。従って、傍観者的に授業を受ける態度ではなく、自ら思考され表現されることを望む。
遠隔授業の進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。ディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則登校される日に配付。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 障がい者を取り巻く社会情勢と障がい者福祉の思想	障がい者福祉の思想をまとめる	
2. 障害の理解Ⅰ－1　身体障害1　身体障害者福祉法	身体障害者福祉法をまとめる	
3. 障害の理解Ⅰ－2　身体障害2　身体障害の定義と理解	身体障害の定義より身体障害を理解する	
4. 障害の理解Ⅱ　知的障害　知的障害者福祉法と障害の理解	知的障害を理解する	
5. 障害の理解Ⅲ　精神障害　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と障害の理解	精神障害を理解する	
6. 障害の理解Ⅳ　発達障害　発達障害者支援法と障害の理解	発達障害を理解する	
7. 障がい者スポーツ　障害に応じた競技規則や実施方法	競技規則と障害の関係をまとめる	
8. 障がい者施策	障がい者施策を整理する	

成績評価方法	項目	■課題　30%	□レポート　%	■定期試験　70%	■その他　%
	基準等	講義内課題		全般に渡り理解度をはかる。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する			
参考図書	講義内で適宜紹介する			

履修要件等	社会福祉学，社会保障制度　を履修されていることを望む		
オープンな 教育リソース			
研究室	1 号館 4 階第 1 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00

科目№	FHW05-3R，FHW07-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	就労支援学	担当教員 E-Mail	岸村　厚志・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念	必修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、職業関連活動及び就労支援活動の評価、自立支援に向けた法的根拠、障がい者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法（ジョブコーチの利用など）、サポートシステムの現状について講義を行う。
授業内容の要約	人の社会生活を考えるときに最も基本的な営みである就労・職業を理解し、医学的知識に基づく障がいの理解と就労における関連職種の役割を学ぶ。併せて就労支援活動の評価、法的根拠、障がい者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法、サポートシステムの現状についての基礎知識を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 就労・職業の意味を探り、就労・職業技能の発達について理解できる 2. 職業リハビリテーションの概念について理解できる 3. 障がい別の就労支援活動における関連職種の役割について述べることができる 4. 法制度、及び各領域の就労支援について理解できる
対面授業の進め方	講義を中心として、演習（検査等を含む）を適宜加える 対象者の就労・職業生活に関わる内容なので、社会情勢や出来事の事象に関心をもつこと
遠隔授業の進め方	teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 職業関連活動概説 働くということ・働き方改革の時代	資料の振り返り	
2. 障がい者と職業	資料の振り返り	
3. 就労支援に関わる職業評価について	資料の振り返り	
4. 障がい別就労支援の実際 視覚障害	資料の振り返り	
5. 障がい別就労支援の実際 聴覚・平衡機能・高次脳機能・内部障害	資料の振り返り	
6. 障がい別就労支援の実際 肢体不自由	資料の振り返り	
7. 障がい別就労支援の実際 精神障害領域	資料の振り返り	
定 期 試 験　（期末試験：マークシート）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　35%	□レポート　　%	□定期試験　65%	□その他　　%
	基準等	課題など		マークシート試験	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	芳賀大輔・金川善衛・稲富宏之	ゼロから始める就労支援ガイドブック	メジカルビュー社	2022
参考図書	中村俊彦・建木健・藤田さより編著	就労支援の作業療法 ―基礎から臨床実践まで―	医歯薬出版	2022
	平賀昭信･岩瀬義昭編集	作業療法学全書第 12 巻「作業療法技術学 4 職業関連活動」	協同医書出版	2009
	松為信雄	「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリングー理論と実際ー」	ジアース教育新社	2021
	長崎重信監修 里村恵子編集	「改訂第３版　作業療法学ゴールドマスターテキスト　作業療法学概論」	メジカルビュー社	2021
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	岸村：1 号館 1 階 作業療法専攻長室 増澤：1 号館 5 階 共同研究室	オフィスアワー	岸村：毎週月曜日　16：20～17：00 増澤：毎週木曜日　12：10～13：00	

科目№	SPT25-3E，SOT22-3E，FHW11-3E	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	園芸療法実習Ⅰ	担当教員 E-Mail	田崎　史江		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1　単位	前　期（30h）
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念			

教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士の経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。
授業内容の要約	園芸療法士となるために、園芸療法実習を行い実践から学ぶ。療法の対象者の情報収集、ニーズや課題から目標を設定、園芸療法プログラムの立案、観察方法、特性のとらえ方を体験する。
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題をあげることができる 2. 対象者のニーズや課題に沿った目標設定ができる 3. 植物や園芸作業を用いたアプローチ・サポート方法を考え、実践できる
授業形態 授業の進め方	プリントやワークシートなどの資料を適宜配布し、講義、演習、実習で進めていく。演習、実習では振り返りの時間を取り、理解の確認を行う。本科目は園芸療法実習Ⅱと連続して授業を行う。
遠隔授業の進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. オリエンテーション　授業の進め方・授業目標確認・チーム設定	園芸療法関連授業専用のファイルを準備する	
2. 園芸療法プログラム実習1：園芸療法プログラム実習の概要 実践方法の説明、プログラム評価方法	・高齢者に適した療法プログラムを考える	
3. 園芸療法プログラム実習2：計画	・園芸療法プログラムの内容を把握する ・実践時の自分の動きをイメージする ・評価項目を把握する ・プログラム実習時の対象者と自分との動きを振り返り、目的を果たせたか、対象者への影響・自分がもたらした療法的効果を考える ・園芸療法対象者の評価、評価の共有と療法プログラムの見直し・修正を考える	
4. 園芸療法プログラム実習3：計画		
5. 園芸療法プログラム実習4：計画		
6. 園芸療法プログラム実習5：学生を対象に演習と振り返り		
7. 園芸療法プログラム実習6：学生を対象に演習と振り返り		
8. 園芸療法プログラム実習7：学生を対象に演習と振り返り		
9. 園芸療法プログラム実習8：高齢者を対象に実践と振り返り		
10. 園芸療法プログラム実習9：高齢者を対象に実践と振り返り		
11. 園芸療法プログラム実習10：高齢者を対象に実践と振り返り		
12. 園芸療法プログラム実習11：プログラム実習の全体の振り返り	・実習の総評	
13. 園芸療法実践現場・公園・緑地等の紹介、文献輪読	・園芸療法実践現場を検索する ・園芸療法評価に関する文献検索、読む	
14. 授業の総復習とレポート課題と確認試験のための準備	・授業で使用した資料・課題をまとめる	
定期試験は行わず、レポートにより評価する　「園芸療法プログラムの作成」		
15. 総括及びフィードバック	園芸療法の理解と知識の修正を行う	

成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト　%	■ レポート　70　%	□ 定期試験　%	■ その他　30　%
	基準等		園芸療法プログラム実習の記録内容と、作成された園芸療法プログラムの内容を評価する。		授業参加態度により減点する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない。各回において講義資料やワークシートを配布する。			
参考図書	岩崎　寛	みどりの処方箋 ヒーリング時代の緑の使い方	グリーン情報	2023
	スー・スチュアート・スミス	庭仕事の神髄 老い・病・トラウマ・孤独を癒す庭	築地書館	2022
	フローレンス・ウィリアム	NATURE FIX 自然が最高の脳をつくる	NHK 出版	2020
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。			
オープンな 教育リソース				
研究室	1 号館 4 階　第 3 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00	

科目№	SPT26-3E，SOT23-3E，FHW12-3E	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	園芸療法実習Ⅱ	担当教員 E-Mail	田崎　史江		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1　単位	前　期（30h）
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念			

教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士として経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、園芸療法プログラムの計画・実践を通じて植物の利活用を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 園芸療法に用いる植物情報の収集・整理をし、春夏野菜の栽培計画書の作成ができる 3. 園芸植物の利活用方法を提案・指導ができる
授業形態 授業の進め方	本科目は「園芸療法実習Ⅰ」と連続して授業を行う。園芸療法プログラムを主軸に、植物材料の利用法、選択法、栽培管理 等、実践を通して学んでいく。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。
遠隔授業の 進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. オリエンテーション　第1ガーデン内施設と植栽の復習、育てる野菜の決定、野菜の栽培方法について調べる	・夏野菜についての予習	
2. 第2イネーブルガーデン：畑の準備（土作り、畝立て）	・作業に必要な個人で使う物品を揃える	
3. 第1イネーブルガーデン：春夏一年草の種まき、	・授業内で次週の授業の案内を行うので、それに沿って予習すること ・野菜の栽培記録写真を保存し提出物として編集すること ・天候により、授業内容を変更することがある ・基本的にはチーム単位で行動する	
4. 第2イネーブルガーデン：野菜苗の定植他		
5. 第2イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、他		
6. 第2イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、他		
7. 第2イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、レイズドベッド作成		
8. 第2イネーブルガーデン：ウメの収穫　→ウメの加工		
9. 第1イネーブルガーデン：花壇の植え替え、花苗定植		
10. 第2イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥、レイズドベッド作成		
11. 第2イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥 他		
12. 第2イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥、レイズドベッド作成		
13. 第2イネーブルガーデン：野菜収穫、レイズドベッド仕上げ塗装		
14. 畑の片づけ、道具の手入れ、栽培記録の提出　他	・栽培記録の提出	
定期試験は行わず、レポートにより評価する		
15. 総括及びフィードバック（レポート返却と講評・解説）	野菜栽培の振り返り、理解と知識の修正を行う	

成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト　%	■ レポート　50　%	□ 定期試験　%	□ その他　50　%
	基準等		野菜栽培記録の内容を評価する A4 2枚、写真イラスト入りでデザイン性も重視		欠席・遅刻、授業参加態度、作業態度により減点する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	指定なし	指定なし		
参考図書	指定なし	指定なし		

履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。		
オープンな 教育リソース			
研究室	1 号館 4 階　第 3 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00

科目№	SGR02-3R	授業形態	演習	開講年次	3・4年次
授業科目名	卒業研究	担当教員 E-Mail	中村　美砂 / 卒業研究担当教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	卒業研究	必　修	3　単位	3年後期 4年前期 (45h)

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	これまでに学んだリハビリテーション領域における総合的な知識を集大成し、一つの研究テーマに取り組む。「自分で問題を発見し、その解決法を見いだし、問題を解決する」ためのスキルや方法、研究倫理の規範について、本科目を通じて学ぶ。さらに研究成果を研究会、学会などで発表するための表現法、プレゼンテーション法を修得する。本学のディプローマ・ポリシーの知識・技能、態度・思考力を伸ばすための科目である。
学修目標 到達目標	1. 研究テーマを論理的・多面的に理解することができる 2. 問題解決のプランに従い、計画的に研究を遂行することができる 3. 研究内容を口頭発表することができる 4. 倫理規範を遵守することができる
対面授業の進め方	興味のあるテーマについて、関連論文抄読会の準備を行い、ゼミ形式で検討を加え、研究倫理についても学びながら、研究計画を立案・実施していく。多くは実験を伴うテーマであり、結果の整理、統計的評価、研究のまとめを通して学会発表レベルに仕上げることを目標とする。
遠隔授業の進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	600分以上
研究のスケジュールは、研究テーマによって異なり、かつ、研究の進展にあわせ動的に見直しされることになる。下記に授業計画のモデルケースを示す。 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを洗い出す 2. 研究方針の決定 研究遂行のための研究方針を議論し決定する 3. 研究計画・方法の決定 問題を解決するための方法・方式を議論し決定する 4. 研究倫理申請書の作成・提出 研究倫理の基本的概念を理解して、倫理委員会への申請書類を作成、提出し審査を受ける 5. 実践 問題を解決するための調査、実験を行う。担当教員と議論しつつ進める 6. 結果・考察 調査、実験により得られた結果をもとに図表などにまとめ、客観的に評価・考察する 7. 卒業研究の発表 研究内容をスライドにまとめ、発表する	これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。	

成績評価方法	項目	■研究態度　50%	■卒業研究　25%	■研究発表　25%	□その他　%
	基準等	主査１名（指導教員）が、研究態度の評価を行う。	主査１名および副査２名の計３名が、卒業研究の内容についての評価を行う。	主査１名および副査２名の計３名が、研究発表の評価を行う。	

<table>
<tr><td rowspan="3">教科書</td><td>著者</td><td>タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td colspan="4">指導教員による紹介</td></tr>
<tr><td colspan="4">文献検索等により必用な文献を得る</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="4">開始前に必ず卒業研究の説明会を受講すること。</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">各指導教員　研究室</td><td>オフィスアワー</td><td>各指導教員　オフィスアワー</td></tr>
</table>

科目№	SRP04-3E，SRO05-3E，SRM04-3E	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	健康増進・介護予防フィールドワーク	担当教員 E-Mail	今岡　真和		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1　単位	前　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学				

教員の実務経験と授業内容の関連	1次・2次予防のコンセプトを基に、地域在住高齢者を対象とした運動教室や疫学調査を多年に渡り実施している教員が、公衆衛生的な重要性を踏まえて健康増進・介護予防の実践を学ぶ
授業内容の要約	わが国では非感染性疾患は増加している状況であるが、生活習慣などを改善することで、これらの疾患を予防することが可能である。そのため、療法士が専門職として正しい健康増進・介護予防に関する知識を身に着け未病者の健康づくりを支援する実践方法を知ることが出来る。
学修目標 到達目標	1.　ライフサイクルに対応した健康増進の意義と目的が理解できる 2.　地域在住高齢者を対象とした健康増進と介護予防の実践が模倣で可能となる 3.　フレイル・サルコペニア・MCI 予防を目的とした介入方法を実践できる
対面授業の進め方	・講義とグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業を進める。 ・公衆衛生、健康増進に関する書籍を事前に読むことを推奨する
遠隔授業の進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	10分以上
1.　健康増進と介護予防の概要（健康日本21など）	教科書P3-5　スライド資料	
2.　老年症候群と介護予防、これからの介護予防、地域包括ケアシステム	教科書P9-20	
3.　住民主体の介護予防実践　世代間交流　柏モデルの実践1	教科書P39-144	
4.　住民主体の介護予防実践　世代間交流　柏モデルの実践2	教科書P39-144	
5.　地域におけるスマートシティ化とウェアラブルデバイス1	教科書P161-499　スライド資料	
6.　地域におけるスマートシティ化とウェアラブルデバイス2	教科書P161-499　スライド資料	
7.　地域におけるICT技術とヘルステックのソリューション1	教科書P161-499　スライド資料	
8.　地域におけるICT技術とヘルステックのソリューション2	教科書P161-499　スライド資料	
9.　地域に実装する運動プログラムの作成1	教科書全般とスライド資料　目的　意義	
10.　地域に実装する運動プログラムの発表1（6月3日）	教科書全般とスライド資料　実践1	
11.　地域に実装する運動プログラムの作成2	教科書全般とスライド資料　プレ実践	
12.　地域に実装する運動プログラムの発表2（6月24日）	教科書全般とスライド資料　実践2	
13.　フィールドワークの実施（運動プログラムの実施）	地域の施設にて実施（予定）※社会情勢による	
14.　フィールドワークの振り返り	修正点　今後の改善点、良かった点の振り返り	
定期試験（期末レポート）		
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　50%	■その他　50%
	基準等			1～8の講義内容を範囲としたテストを行う	運動プログラム作成の取り組みやプログラム内容を評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	鈴木隆雄　他	完全版　介護予防マニュアル	法研	2015
参考図書				
履修要件等				

オープンな 教育リソース	フレイルとその予防　https://youtu.be/HFTi2pTxkTw 認知症とその予防　https://youtu.be/TqAuUsvXSqc		
研究室	研究科棟 4 階　143 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：00～13：00

科目№	SPT21-3E，SOT18-3E，SRM06-3E	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション実習	担当教員 E-Mail	久保　峰鳴・村上　達典・大前　千代子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1　単位	前　期（30h）
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション			

教員の実務経験と授業内容の関連	スポーツ選手に対する健康支援サポートの方法について、臨床やスポーツ現場での経験がある教員にて講義と実技を行う。
授業内容の要約	病院での臨床およびスポーツ現場における選手のサポート経験がある教員が、その経験を活かして、スポーツリハビリテーションについて、基本的な知識と手法について講義と実技指導を行う。スポーツ特有の傷害(外傷と障害)を理解し、適切なリハビリテーションの方針を知るとともに、スポーツ外傷・障害の発生機序を理解することで健康増進におけるリハビリテーションのあり方を考察する。また、障がいのある人との交流を通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性、意義や価値、障がい特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶ。実際にパラ・スポーツ経験者とともに、車椅子バスケットボールや車いすテニスなどの体験学習を行う。
学修目標 到達目標	1. スポーツリハビリテーションの必要性、意義について理解できる 2. 損傷部位から受傷機転を推論できる 3. パフォーマンスを向上させるための方法を列挙できる 4. 障害構造から適切なトレーニング方法を選択できる 5. 障がい者にとってのスポーツの必要性、意義について理解できる 6. 各種障がい特性に応じたスポーツの工夫の基本的な視点を身につける
対面授業の進め方	講義は、教科書や講義内で配布する資料を中心に解説し、必要であれば実技を行うので、実技が可能な服装で出席すること。トレーニングや運動療法の手技を理解するため、理論背景の解説と実技練習を取り入れる。実技は、自分たちの自習時間を使って練習して体得するように努力すること。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teams によるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. スポーツリハビリテーションの概要	運動学（力学）を復習しておくこと。	
2. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション（上肢）	授業内容を復習し理解する	
3. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション（下肢）	授業内容を復習し理解する	
4. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション（体幹）	授業内容を復習し理解する	
5. スポーツ動作の運動学	授業内容を復習し理解する	
6. スポーツ分野のパフォーマンステスト	授業内容を復習し理解する	
7. コミュニケーションスキルの基礎	授業内容を復習し理解する	
8. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①	授業内容を復習し理解する	
9. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②	授業内容を復習し理解する	
10. スポーツ外傷に対するテーピング技術①	授業内容を復習し理解する	
11. スポーツ外傷に対するテーピング技術②	授業内容を復習し理解する	
12. 全国障害者スポーツ大会の概要	授業内容を復習し理解する	
13. 障がいのある人との交流	授業内容を復習し理解する	
14. 障がい者スポーツ推進の取り組み	授業内容を復習し理解する	
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト ％	■レポート　　100％	□定期試験　　％	■その他　　％
	基準等		スポーツリハビリテーションに関して、課題を提示する。講義や実技内容と絡めてどのように考察しているか、またその独自性や完成度で配点を行う。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	陶山 哲夫	スポーツ理学療法学　第３版	メジカルビュー社	2023
参考図書	青木 隆明	初めて携わるメディカルスタッフのための障がい者スポーツ	メジカルビュー社	2021
履修要件等				
オープンな教育リソース				

研究室	１号館５階 第３共同研究室	オフィスアワー	久保：毎週月曜日　12：10～13：00 村上：毎週火曜日　12：10～13：00

科目№	SGR01-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	研究法（PT）	担当教員 E-Mail	今岡　真和		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	卒業研究	必修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	システマティックレビュー、ランダム化比較試験など大規模データを用いた研究解析を多数実施した経験から、データの取扱い、解析方法などを具体的に教示できる。
授業内容の要約	理学療法学について研究する様々な方法論、統計学的検定の選択法を学ぶ。また、研究の一連の流れを学び、研究の具体的方法を習得する。ICT を活用した情報分析、課題解決に必要な情報探索方法の獲得、情報アウトプットの書き方、プレゼンテーション技法を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 研究データ分析のための基礎的な統計処理等を理解する 2. 研究の一連の過程・方法論を理解する
対面授業の進め方	講義および課題に対する演習とする。 卒業研究に向けての第一歩である。積極的な授業参加を期待する。
遠隔授業の進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. EBM と EBPT、研究に関する基礎知識	教科書 P1-10	
2. 研究デザインの紹介	教科書 P13-24、P100-151	
3. 論文検索（図書館利用方法、倫理申請、リテラシー全般について）	Call 教室にて文献検索　教科書 P27-69	
4. 研究発表に必要な準備（抄録・論文・プレゼンテーションなど）、定期テスト	教科書 P154-170	
5. 統計手法①（パラメトリック・ノンパラメトリック）	教科書 P'100-139	
6. 統計手法②（差の検定、相関の検定）	教科書 P100-139	
7. 卒業研究演習 【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】①	実験、調査、文献検索など。	
8. 卒業研究演習 【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】②	実験、調査、文献検索など。	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　70%	■その他　30%
	基準等			1～6は、科目担当教員が評価する。	7～8は、卒業研究の指導教員が評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	対馬照輝	最新理学療法学講座　理学療法研究法	医歯薬出版	2021
参考図書	山田実　他	PT・OT のための臨床研究はじめの一歩	羊土社	2016

履修要件等	3年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目を履修していることが望ましい。
オープンな教育リソース	
研究室	研究科棟4階　143研究室　　オフィスアワー　毎週水曜日 12：00～13：00

科目№	SBP06-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	臨床運動学	担当教員 E-Mail	村西　壽祥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として病院での臨床経験がある教員が講義を行う。
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。運動学的・運動力学的知識を基に、正常歩行や姿勢・動作の観察・分析方法について学修する。また、解剖学および基礎運動学の知識を基に，体幹の運動機能および病態について学修する。
学修目標 到達目標	1. 正常歩行の運動学・運動力学的な観察・分析が理解できる。 2. 基本動作の運動学的・運動力学的な観察・分析が理解できる。 3. 体幹の構造と機能的な役割を説明できる。
対面授業の進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学，基礎運動学，機能運動学Ⅰ・Ⅱを理解している前提で進める。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 正常歩行①　基本的用語	復習：歩行に関する用語の整理
2. 正常歩行②　時間的・空間的因子	復習：重心・歩幅・重複歩・ケイデンス
3. 正常歩行③　各関節運動とその役割	復習：歩行時の各関節運動の意味
4. 正常歩行④　歩行時の筋活動とその役割	復習：歩行時の各筋活動の時期と意味
5. 正常歩行⑤　歩行におけるバイオメカニクス	復習：歩行時の床反力の意味
6. 正常歩行⑥　歩行時の関節モーメント	復習：歩行における関節モーメントの意味
7. 姿勢と動作の観察・分析①　力学的基礎	復習：基本的な力学の整理
8. 姿勢と動作の観察・分析②　姿勢と支持基底面，重心	復習：姿勢と支持基底面，重心との関係
9. 姿勢と動作の観察・分析③　重心と関節モーメント	復習:視覚による重心位置と関節モーメントの確認方法
10. 姿勢と動作の観察・分析④　phase の分け方	復習：phase 毎の分析方法
11. 体幹の構造と機能①　骨・関節・靭帯・の構造と機能	復習：脊柱の解剖学的特徴と構成する組織の役割
11. 体幹の構造と機能②　椎間板・筋の構造と機能	復習：椎間板の構造と役割、体幹筋の機能
13. 体幹の構造と機能③　体幹の運動学	復習：　体幹のバイオメカニクス
14. 体幹の構造と機能④　病態運動学	復習：体幹の病態運動学
定 期 試 験	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　30%	□レポート　%	■定期試験　70%	□その他　%
	基準等	毎回，授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する		定期試験は記述試験とする	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	Donald A Neuman	筋骨格系のキネジオロジー　原著第3版	医歯薬出版	2021
参考図書	月城慶一　他	観察による歩行分析	医学書院	2005
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ、運動学、基礎運動学、基礎運動学実習、機能運動学Ⅰ・Ⅱ			

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00

科目№	SBP07-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床運動学演習	担当教員 E-Mail	岡　健司		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学	必修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士としての実務経験をもとに、姿勢と動作の基本原理と観察技法の基礎を解説する。
授業内容の要約	正常な姿勢と動作の基本原理と、障害がこれらに与える影響について理解を深める。 姿勢と動作を目視で観察・分析する手法の基礎を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 姿勢と動作の基礎理論を習得する。 2. 姿勢と基本動作の観察・分析の基礎的手法を理解して実践できるようにする。
対面授業の進め方	姿勢と動作の原理に関する講義の後に、基本的な観察・分析の演習を行う。観察する姿勢・動作は動画・紙面等で用意する。演習は個人または小グループで行い、観察・分析・記録結果をクラスで共有し、フィードバックを受ける。
遠隔授業の進め方	遠隔授業となる場合にはMicrosoft Teamsを用いてオンタイム・オンデマンド配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 姿勢と動作：姿勢と動作の違い、観察と分析の違いを確認する。姿勢を観察するということについて学ぶ。（演習：姿勢の観察と記録）	レポート（静止立位姿勢）
2. 動作の基本的構成要素：起立動作と歩行を例に、周期・相（phase）・時間的因子・空間的因子を踏まえて動作を観察することを学ぶ。（演習：動作の観察）	レポート（歩行の周期、相、時間的・空間的因子）
3. 歩行時の下肢運動とその役割：歩行時の下肢関節運動、ロコモーター/パッセンジャーユニット等を学ぶ。（演習：歩行時の下肢関節運動の観察）	レポート（歩行時の関節運動）
4. 歩行時の筋活動：歩行時の下肢筋・体幹筋の活動パターンを理解する。（演習：歩行時の下肢・体幹筋活動の推定）	レポート（歩行時の筋活動）
5. 歩行の力学的特性：歩行時の身体重心・床反力・関節モーメントを理解する。（演習：歩行時に生じる力学的要素の推定）	レポート（歩行時の重心・床反力・関節モーメント）
6. 歩行テスト/異常歩行：歩行の実用的要素や代表的な歩行テストを学ぶ。また、歩行を例に、異常動作の原因を探るということについて学ぶ。（演習：動作の分析）	レポート（歩行テスト；異常歩行）
7. 歩行時の足関節・足部の機能：歩行時の足関節・足部運動の特徴を理解する。（演習：異常歩行の観察）	レポート（歩行時の足の機能）
8. 歩行時の膝関節の機能：歩行時の膝関節運動の特徴を理解する。（演習：異常歩行の観察）	レポート（歩行時の膝関節の機能）
9. 歩行時の股関節の機能：歩行時の股関節運動の特徴を理解する。（演習：異常歩行の観察）	レポート（歩行時の股関節の機能）
10. 歩行時の体幹の機能：歩行時の体幹運動の特徴を理解する。（演習：異常歩行の観察）	レポート（歩行時の体幹）
11. 姿勢・基本動作の観察・分析（1）：動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。（演習：姿勢・基本動作の観察・分析、成果発表、ディスカッション）	演習課題
12. 姿勢・基本動作の観察・分析（2）：動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。（演習：姿勢・基本動作の観察・分析、成果発表、ディスカッション）	演習課題
13. 姿勢・基本動作の観察・分析（3）：動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。（演習：姿勢・基本動作の観察・分析、成果発表、ディスカッション）	演習課題
14. 姿勢・基本動作の観察・分析（4）：動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。（演習：姿勢・基本動作の観察・分析、成果発表、ディスカッション）	演習課題

定 期 試 験 （期末試験）：実施しない					
15. 演習のフィードバック、動作分析に関する最近の研究動向の紹介、総括 ┆ 復習					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト　70%	■レポート　30%	■定期試験　0 %	□その他　0 %
	基準等	個人またはグループで実施した演習成果を評価する。	動作観察の基礎知識に関するレポートを評価する。		課題・レポートの内容によっては再提出や補習を求める場合がある。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤澤宏幸　編著	データに基づく臨床動作分析	文光堂	2016
参考図書	畠中泰彦　編	PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析　第２版	羊土社	2023
	DA Neuman	筋骨格系のキネシオロジー原著３版	医歯薬出版	2018
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ、基礎運動学、基礎運動学実習、機能運動学Ⅰ，機能運動学Ⅱを履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館４階　第２研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10〜13：00	

科目№	SPM01-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	理学療法管理学Ⅰ	担当教員 E-Mail	畑中　良太		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法管理学	必修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院、職能団体、養成校の管理経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法管理についての考え方について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法管理学Ⅱ」につながる科目である。医療の高度化や変化する時代に対応しながら、関連職種と連携し、チーム医療を推進しなければならない。これまで学習した理学療法について、対象者へ提供するための、さまざまなマネジメント（管理）を学ぶ。
学修目標 到達目標	1.　理学療法関連法規が説明できる 2.　職業倫理が説明できる 3.　リスク管理について説明できる
対面授業の進め方	講義内容の概略を講義し、グループ討議を中心に行う。
遠隔授業の進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせて行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　管理学とは（教科書 pp14-24）	復習：管理学の重要性が高まる理由	
2.　理学療法関連法規（教科書 pp 25-35）	復習：理学療法士及び作業療法士法	
3.　職業倫理（教科書 pp 36-45）	復習：理学療法士の職業倫理ガイドライン	
4.　リスク管理①（教科書 pp 46-85）模擬症例検討	課題：模擬症例におけるリスク管理	
5.　リスク管理②（教科書 pp 46-85）模擬症例検討	課題：模擬症例におけるリスク管理	
6.　リスク管理③（教科書 pp 46-85）模擬症例検討	課題：模擬症例におけるリスク管理	
7.　リスク管理④（教科書 pp 46-85）模擬症例検討	課題：模擬症例におけるリスク管理	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
8.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	□レポート　100%	☑定期試験　100%	□その他　%
	基準等			教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	齋藤昭彦　他	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション管理学	羊土社	2020
参考図書	植松光俊　監修	理学療法管理学	南江堂	2018
		リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版	診断と治療社	2018

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	研究科棟4階　142研究室	オフィスアワー	毎週月曜日　12:10～13:00

科目№	SPT10-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	神経系理学療法学	担当教員 E-Mail	畑中　良太		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	2　単位	前　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、神経系理学療法の基本的な知識と手法、神経系理学療法についての考え方について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「理学療法評価学Ⅰ」を基礎とし、「臨床総合実習Ⅱ」へ発展させる科目である。中枢神経障害に応じた評価や理学療法の基本的学力を身につけ、評価や理学療法の基本的技能を身につけることを目指す。
学修目標 到達目標	1. 脳卒中の病態およびその障害について理解できる 2. 脳血管障害の評価、理学療法について基本的な理解ができる 3. 脳血管障害の評価、理学療法についての基本的な技能が身についている
対面授業の進め方	概要を講義形式にて行い、問題演習、実習を行い、模擬症例についてグループワークを行う。
遠隔授業の進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせて行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 脳・神経の解剖生理（教科書 pp4-15）	復習：脳葉、脳回について	
2. 脳の血管 54	復習：血管の支配領域について	
3. 脳血管障害 30-35	復習：脳梗塞、脳出血について	
4. 脳画像 46-64	復習：CT、MRI の見方	
5. 脳の可塑性とリハビリテーション 67-73	復習：ペナンブラについて	
6. 意識障害とリスク管理 94-101	復習：急性期リスク管理について	
7. 運動障害 102-115	復習：CI 療法について	
8. 筋緊張異常・反射異常 131-139	復習：筋緊張と反射の関係	
9. 感覚障害 118-127	復習：感覚検査の手順	
10. 注意・遂行機能障害 187-193	復習：転倒との関連	
11. 失認症 154-161	復習：半側身体失認について	
12. 半側空間無視 162-172	復習：プリズム眼鏡の使用法	
13. 失行症 173-183	復習：言語との関連	
14. 精神知能障害 194-202	復習：うつ、アパシーについて	
15. 姿勢定位障害 229-239	復習：pusher 症候群について	
16. 姿勢バランス障害の評価 240-248	復習：FBS の手順	
17. 姿勢バランス障害の理学療法 249-252	復習：課題特異的戦略	
18. 運動失調の評価 140-148	復習：SARA の手順	
19. 運動失調の理学療法 148-153	復習：フィードバック制御の賦活	
20. 脳血管障害の痛み 203-214	復習：肩手症候群について	
21. 二次的機能障害 217-226	復習：廃用症候群の予防	
22. 起居動作障害 253-264	復習：起き上がり、立ち上がりの誘導	
23. 片麻痺の歩行の評価 268-277	復習：片麻痺歩行の特徴	
24. 片麻痺歩行の理学療法 278-283	復習：下肢装具とエビデンス	

25. ブルンストロームステージと上田式12段階	復習：BRSTの練習
26. SIAS　107	復習：SIASの練習
27. 模擬症例検討（グループワーク）	課題：模擬症例についてまとめる
28. 喀痰吸引の理論と実施方法（総論）	復習：喀痰吸引の理解
29. 喀痰吸引の実施方法（実習）	復習：喀痰吸引の方法
定期試験（期末レポート）	
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	☑レポート　10%	☑定期試験　90%	□その他　%
	基準等		喀痰吸引の実施手順について理解度を評価する	授業の内容全般についての理解度を評価する	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	酒向正春　他	リハに役立つ脳画像　改訂第2版	メジカルビュー社	2020
	森岡　周　他	標準理学療法学　専門分野　神経理学療法学 第3版	医学書院	2022
参考図書	阿部浩明　他	脳卒中片麻痺者に対する 歩行リハビリテーション	メジカルビュー社	2016
	石合純夫	高次脳機能障害学第3版	医歯薬出版	2022
	千野直一　他	実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価－SIASとFIM【基礎編】	金原出版	2012

履修要件等	特になし		
オープンな教育リソース			
研究室	研究科棟4階　142研究室	オフィスアワー	毎週月曜日　12:10～13:00

科目№	SPT11-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	神経系理学療法学実習	担当教員 E-Mail	畑中　良太・肥田　光正・今井　亮太		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	2　単位	前　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院で勤務経験のある教員（理学療法士）が、その経験を生かして脊髄障害、神経筋疾患、および脳性麻痺など小児疾患の基本的な理学療法に関する知識と手法について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「理学療法評価学Ⅰ」を基礎とし、「臨床総合実習Ⅱ」へ発展させる科目である。成人領域として脊髄損傷、神経筋疾患の病態から理学療法について、また小児領域として小児疾患の障害に応じた評価や理学療法のアプローチを理解する。
学修目標 到達目標	1. 脊髄障害の特性の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 2. 神経筋疾患の障害の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 3. 小児特有の疾患や障害について理解でき、基本的な理学療法が実施できる
対面授業の進め方	講義に基づくグループディスカッション，プレゼンテーションを併用しながら教授する。プレゼンテーションはoffice365を用い、グループディスカッションの内容をプレゼンテーションし共有する時間を設ける。
遠隔授業の進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、streamを用いて講義を実施する。実技の習得が必要な場合には学生自身の学修が重要であるため，学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teamsやメール、電話などで対応する。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 脊髄障害の概要と病態について	講義の復習をしておくこと
2. 脊髄障害の評価①　急性期の評価	
3. 脊髄障害の評価②　機能障害の評価	
4. 脊髄障害の評価③　活動，参加レベルについての評価	
5. 脊髄障害の合併症およびリスク管理	
6. 脊髄障害の理学療法①　急性期	講義の復習及び，提示された課題に取り組むこと
7. 脊髄障害の理学療法②　回復期～生活期，スポーツへの参加	
8. パーキンソン病の概要	復習：パーキンソン病について
9. パーキンソン病の評価	
10. パーキンソン病の理学療法	
11. 脊髄小脳変性症の概要と評価	復習：脊髄小脳変性症について
12. 脊髄小脳変性症の理学療法	
13. 筋委縮性側索硬化症の理学療法	復習：筋委縮性側索硬化症について
14. 多発性硬化症、ギランバレー症候群の理学療法	復習：多発性硬化症、ギランバレー症候群について 提示された課題に取り組むこと
15. 正常な粗大運動発達	復習：歩行までの発達について
16. 脳性麻痺の定義	復習：日本と世界の定義について
17. 脳性麻痺の分類	復習：痙直型、アテトーゼ型について
18. 脳性麻痺の原因	復習：早産、低出生体重児について

19. 脳性麻痺の評価	復習：各種評価について
20. 脳性麻痺の二次障害	復習：股関節脱臼、側彎症について
21. 脳性麻痺の医学的治療	復習：外科的手術について
22. 脳性麻痺児の理学療法	復習：ストレッチについて
23. 筋ジストロフィー総論	復習：デュシェンヌ型の症状について
24. 筋ジストロフィーの理学療法	復習：重症度分類について
25. 二分脊椎の理学療法	復習：Sharrard の分類について
26. ダウン症候群の理学療法	復習：低緊張、合併症について
27. 神経発達症群の理学療法	復習：DCD について
28. 模擬症例検討（グループ討論）	課題：模擬症例の検討
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
29. 成人領域総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	
30. 小児領域総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　5　%	■レポート 45%	■定期試験　50　%	□その他　%
	基準等	成人領域では，疾患を有する者の動作を模倣し，健常者との違いを考察するための課題に取り組む.	成人領域では講義内容に関するレポートを課し内容を評価する.	定期試験は小児領域で実施. 定期試験では、授業の内容全般についての理解度を評価.	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	細田多穂　監修	シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト　改訂第３版	南江堂	2018
	平賀篤　他	PT・OT ビジュアルテキスト 小児理学療法学	羊土社	2023
参考図書	藪中良彦　他	Crosslink　理学療法学テキスト 小児理学療法学	メジカルビュー社	2020
	楠本泰士　他	小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ	メジカルビュー社	2019

履修要件等	特になし		
オープンな教育リソース			
研究室	畑中：研究科棟４階　第 142 研究室 肥田：研究科棟４階　第 141 研究室 今井：研究科棟４階　第 145 研究室	オフィスアワー	畑中：毎週月曜日　12：10～13：00 肥田：毎週月曜日　13：00～14：30 今井：毎週月曜日　12：10～13：00

科目№	SPT13-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	運動器系理学療法学実習	担当教員 E-Mail	峰久　京子・久保　峰鳴		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	2　単位	前　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	運動器疾患の急性期、回復期、維持期の理学療法について、病院にて理学療法士として23年の臨床経験を有する教員にて講義、実技を行う。また、臨床経験を踏まえ、疾患部位別の評価の特徴や運動療法のポイントを説明する。
授業内容の要約	運動器の疾患・障害の病態について解剖学的・運動学的観点から学習する。 代表的な運動器の疾患・障害の病態に基づいた評価・治療の技術方法について学習する。
学修目標 到達目標	1.身体部位ごとに運動器疾患の病態について説明ができる 2.運動器の疾患・障害について理学療法評価の実技ができる 3.運動器の疾患・障害について理学療法治療の実技ができる
対面授業の進め方	講義ならびにデモンストレーションで説明を行った後、ペア・グループを組んで実技を行う。大関節毎にまとめとして行う代表的疾患の評価と治療のグループワークが実技試験の範囲となる。実技練習は時間が限られるため実技が可能な服装・整容で出席し、感染対策に留意しながらきちんと体得すること。
遠隔授業の進め方	Microsoftoffice365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teams に紐づけられた Class Notebook に授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	60分以上
1.　オリエンテーション 総論．運動器の運動療法とその基礎（教科書ｐ12～57）	教科書を予習する．授業を復習する	
2.　総論．末梢神経障害の評価と治療（教科書ｐ59～74）	教科書を予習する．授業を復習する	
3.　股関節の関節運動と代表的疾患の評価と治療：（教科書ｐ218～226）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
4. 股関節の運動性の評価と治療：（教科書ｐ226～236）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
5. 股関節の安定性の評価と治療：（教科書ｐ237～243）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
6. 股関節の姿勢制御の評価と治療：（教科書ｐ243～253）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
7. 代表的股関節疾患の評価と治療演習（グループワーク）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
8. 膝靭帯と半月板損傷の理学療法：総論（クロスリンクｐ438～467）	教科書を予習する．授業を復習する	
9. 膝関節の関節運動と代表的疾患の評価と治療：（教科書ｐ254～258）	教科書を予習する．授業を復習する	
10. 膝関節の運動性の評価と治療：（教科書ｐ259～268）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
11. 膝関節の安定性の評価と治療：（教科書ｐ269～273）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
12. 膝関節の姿勢制御の評価と治療：（教科書ｐ273～282）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
13. 代表的膝関節疾患の評価と治療演習（グループワーク）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
14. 足関節の関節運動と代表的疾患の評価と治療： （教科書ｐ283～291）（クロスリンクｐ470～536）	教科書を予習する．授業を復習する	
15. 足関節の運動性の評価と治療： （教科書ｐ291～297）（クロスリンクｐ470～536）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
16. 足関節の安定性と姿勢制御の評価と治療： （教科書ｐ298～308）（クロスリンクｐ470～536）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	
17. 代表的な足関節の評価と治療演習：（グループワーク）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する	

18. 肩関節の関節運動と代表的疾患の評価と治療： （教科書ｐ76～84）（クロスリンクｐ276～363）	教科書を予習する．授業を復習する
19. 肩関節の運動性の評価と治療： （教科書ｐ85～94）（クロスリンクｐ276～363）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
20. 肩関節の安定性の評価と治療： （教科書ｐ95～100）（クロスリンクｐ276～363）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
21. 肩関節の協調性の評価と治療： （教科書ｐ101～103）（クロスリンクｐ276～363）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
22. 代表的な肩関節の評価と治療演習：（グループワーク）	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
23. 肘関節と前腕、手関節と指の関節運動と代表的疾患の評価と治療：(教科書ｐ104～108)、(教科書ｐ76～84)	教科書を予習する．授業を復習する
24. 肘関節と前腕の運動性・安定性・協調性の評価と治療：(教科書ｐ109～119)	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
25.　実技試験とフィードバック（股関節～肩関節）①	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
26.　実技試験とフィードバック（股関節～肩関節）②	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
27. 手関節・指の運動器傷害の評価と治療：実技	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
28. 腰椎の関節運動と代表的疾患の評価と治療：(教科書ｐ177～192)	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
29. 腰椎の運動性・安定性・協調性の評価と治療：(教科書ｐ193～215)	教科書を予習する．授業（実技含）を復習する
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　30%	□レポート　　%	■定期試験　70%	□その他　　%
	基準等	授業内に行うグループワークおよび実技試験の内容を評価する		筆記試験にて講義内容の理解度を問う	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	小柳磨毅　編	PT・OT ビジュアルテキスト　局所と全身からアプローチする　運動器の運動療法	羊土社	2022
	加藤浩	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学	メジカルビュー社	2020
参考図書	細田多穂　監修	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト　改訂第３版	南江堂	2021
	島田洋一 高橋仁美	整形外科　術後理学療法プログラム　第３版	メジカルビュー社	2020

履修要件等	「運動器系理学療法学」「運動療法学実習」「機能運動学」が履修済であることが望ましい。実技を行うため、適切な身だしなみ（髪、爪など）にて参加してください。服装はジーンズなど硬い生地や露出の高い衣類を避けて、大学指定のジャージを着用してください。
オープンな教育リソース	[活用方法]　事前学習と復習 [動画内容]　ACL Test　URL　https://youtu.be/rAVgvDUekb0 [動画内容]　Ankle_SprainTest　URL　https://youtu.be/PzqxxDHNvbk [動画内容]　Knee_StressTest　URL　https://youtu.be/PzqxxDHNvbk

研究室	峰久：１号館５階　第７研究室 久保：１号館５階　第３共同研究室	オフィスアワー	峰久：毎週木曜日 12:10～12:50 久保：毎週月曜日 12:10～13:00

科目№	SPT14-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害理学療法学	担当教員 E-Mail	村上　達典		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床実務経験が12年あり、３学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。
授業内容の要約	本講座は内部障害に対する理学療法について学習する。 本学、理学療法学専攻３年のカリキュラム・ポリシーである「理学療法学および理学療法学実習(神経系・運動器系・内部障害)を中心とした専門領域の学修を通じ、「疾患・障害」のメカニズムを理解し、治療としての理学療法を修得する。」を達成するための科目の１つである。 また、疾患を問わず高齢患者のリハビリテーションにおいてリスク管理を行う上で必要な内容である。
学修目標 到達目標	1. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる 2. 虚血性心疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる 3. 代謝系疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる
対面授業の進め方	講義を中心に行う。講義を通して２回、呼吸器疾患と循環器疾患の理学療法のポイントについてグループワークで協議し、学生による発表と質疑応答を行う。
遠隔授業の進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、パワーポイントの配布物の空欄部分に重要な事項を記載する。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 内部障害系理学療法学総論（①p2-8）	循環器疾患、呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患の特徴についてまとめる
2. 呼吸器疾患の病態（①p114-129）	呼吸器疾患の病態、分類、代表的な疾患についてまとめる
3. 呼吸器疾患の検査データの見方（①p130-143）	スパイロメーター、血ガスと酸素飽和度、胸部X線とCT、その他検査についてまとめる
4. 呼吸器疾患の評価（①p144-162）	問診、視診・触診、打診、聴診、筋力、歩行試験、運動負荷試験、ADL、心理・QOLの評価についてまとめる
5. 呼吸器疾患への理学療法プログラム（①p163-188）	コンディショニング、呼吸練習、呼吸介助法、胸郭可動域改善、排痰法、その他手技、喀痰の喀出についてまとめる
6. 運動療法・ADL指導・包括的呼吸リハビリテーション（①p189-212）	運動療法・ADL 指導・包括的呼吸リハビリテーションについてまとめる
7. 循環器疾患の症候学と病態整理（①p10-23）	心臓の形態と機能、心不全、虚血性心疾患についてまとめる
8. 心筋梗塞・狭心症・心不全の診断学・治療学（①p24-52）	心筋梗塞・狭心症・心不全の診断や治療についてまとめる
9. 循環器疾患の評価（①p53-65）	循環器疾患の評価についてまとめる
10. 循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム（急性期）（①p66-84）	虚血性心疾患、心不全、心臓外科手術後の理学療法についてまとめる
11. 循環器疾患急性期以降の運動療法・ADL指導（①p85-112）	循環器疾患の運動療法、ADL 指導についてまとめる

12. 運動負荷試験（①p214-236）	運動のエネルギー代謝・エネルギー消費量の計算、呼吸循環器疾患の運動負荷試験についてまとめる
13. 糖尿病（①p238-248）	糖尿病の検査と診断、治療、合併症、理学療法についてまとめる
14. 呼吸・循環・代謝疾患のリスク管理（①p250-269）	呼吸・循環・代謝疾患のリスク管理についてまとめる
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	定期試験の振り返りを行う

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	☑レポート　　10%	☑定期試験　80%	☑その他　　10%
	基準等		授業のまとめノートを9回目の講義前と期末に提出すること。この点数は定期試験の点数へ補充することができる。	授業の内容全般についての理解度を評価する。6割以上を合格とする。	グループワークの貢献度、発表内容、発表に対する質問を評価する。この点数は定期試験の点数へ補充することができる。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	柳澤 健	理学療法学　ゴールド・マスターテキスト 6 内部障害系理学療法学	メジカルビュー社	2010
参考図書	鶴田 ひかる 他	病気がみえる vol.2 循環器　第 5 版	MEDIC MEDIA	2021
	森野 勝太郎 他	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第 5 版	MEDIC MEDIA	2019
	巽 浩一郎 他	病気がみえる vol.4 呼吸器　第 3 版	MEDIC MEDIA	2018

履修要件等	2 年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであることが望ましい		
オープンな教育リソース	【活用方法】事前学習と復習 【内部障害理学療法学_演習問題】PDF データを HP にて掲載		
研究室	1 号館 5 階 第 3 共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日　12：10〜13：00

科目№	SPT15-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害理学療法学実習	担当教員 E-Mail	村上　達典・佐伯　純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床実務経験が12年あり、３学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。
授業内容の要約	本講座は内部障害理学療法学にて学んだ理学療法を実践するための技術の実習を行う。 本学、理学療法学専攻3年のカリキュラム・ポリシーである「理学療法学および理学療法学実習(神経系・運動器系・内部障害)を中心とした専門領域の学修を通じ、「疾患・障害」のメカニズムを理解し、治療としての理学療法を修得する。」を達成するための科目の1つである。 また、臨床実習では疾患を問わず必要となる患者のフィジカルアセスメントの技術を習得する。
学修目標 到達目標	1. 内部障害に関連する評価方法について理解し、実践できる 2. 呼吸理学療法の技術を実施できる 3. 運動負荷テストに関して理解し、運動処方ができる
対面授業の進め方	内部障害理学療法で必要な評価や理学療法プログラムの実技の実習を行う。また模擬症例の説明文から症例の病態や評価項目について検討し、問題点の抽出や治療目標の立案の演習を行う。呼吸理学療法の実技に関してはグループワークを行い、学生による実技の発表と質疑応答を行う。講義後にはワークシートの提出を求める。
遠隔授業の進め方	遠隔授業は対面授業同様にTeamsを活用して、実技は動画や実演にて学習する。運動処方等の演習はパワーポイントにて説明し、各自演習する。演習結果をformsに入力して、学習状況を確認する。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 呼吸器の評価①　フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの練習をする
2. 呼吸器の評価②　スパイロメーター	スパイロメーターに関する復習をする
3. 呼吸器の評価③　聴診	聴診の練習をする
4. 呼吸理学療法の徒手的テクニック①　呼吸練習、呼吸介助	呼吸練習、呼吸介助の練習をする
5. 呼吸理学療法の徒手的テクニック②　排痰手技	排痰手技の練習をする 模擬症例のICFについて復習する
6. 呼吸理学療法の徒手的テクニック③　胸部外科術後	胸部外科術後の復習をする 模擬症例のICFについて復習する
7. 吸引法	吸引法の復習をする
8. 呼吸実技のまとめ①　グループワーク①	呼吸実技全般の復習をする
9. 呼吸実技のまとめ②　グループワーク②	呼吸実技全般の復習をする
10. 循環器疾患の理学療法　症例検討	急性心筋梗塞の復習をする 模擬症例のICFについて復習する
11. 末梢動脈疾患の理学療法	末梢動脈疾患の復習をする
12. 運動負荷試験	運動負荷試験の結果を考察する
13. 糖尿病の理学療法	計算問題の復習をする 模擬症例のICFについて復習する
14. 内部障害理学療法のまとめ	実践問題の復習をする
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	定期試験の振り返りを行う

成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 40%	□レポート　　%	☑定期試験　　50%	□その他　　10%
	基準等	講義毎に出される課題（ワークシート）を提出すること。スライドの丸写しではなく学生自身の考えが記載されていることを5段階で評価する。この点数は定期試験とは独立して扱う。		授業の内容全般についての理解度を評価する。6割以上を合格とする。	グループワークの貢献度、発表内容、発表に対する質問を評価する。この点数は定期試験の点数へ補充することができる。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	柳澤健	理学療法学　ゴールド・マスター・テキスト 6　内部障害系理学療法学	メジカルビュー社	2010
参考図書	鶴田 ひかる 他	病気がみえる vol.2 循環器　第５版	MEDIC MEDIA	2021
	森野 勝太郎 他	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第５版	MEDIC MEDIA	2019
	巽 浩一郎 他	病気がみえる vol.4 呼吸器　第３版	MEDIC MEDIA	2018

履修要件等	２年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであることが望ましい		
オープンな教育リソース	【活用方法】事前学習と復習 【内部障害理学療法学実習_演習問題】PDF データを HP にて掲載		
研究室	村上：１号館５階 第３共同研究室 佐伯：１号館５階 第３共同研究室	オフィスアワー	村上：毎週火曜日　12：10～13：00 佐伯：毎週月曜日　12：10～13：00

科目№	SRP02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域理学療法学	担当教員 E-Mail	今岡　真和・肥田　光正		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	介護保険下で理学療法士としての実務経験を重ね、要介護・要支援・要援護者と直接関与してきた経験から、介護保険領域、地域支援事業領域における療法士の職域を説明できる。
授業内容の要約	障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活がおくれるよう、医療や保健・福祉および生活にかかわることの重要性理解する
学修目標 到達目標	1. 地域理学療法の理念、概要、療法士の役割を理解する 2. 地域理学療法の背景と展望についての見識を深め、それを表出できるようになる。 3. 障害の有無に関わらず住み慣れた地域で生活する意味と意義を理解する
対面授業の進め方	教科書を中心に、座学とグループワークを行う。前の週に講義で取り組んだ内容の振り返りやレポート課題を課す場合もある。
遠隔授業の進め方	teams を活用した双方向の授業を行う。またオフィス 365 のフォームスを活用した習熟度を判定する小テストを行い、講義の理解度を確認する

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 地域リハビリテーションの考え方（今岡）	P1-12　理念・概要をまとめる
2. 制度の変遷（肥田）	P13-24　制度設計の目的や意図をまとめる
3. 介護保険サービス概論（肥田）	P25-30　サービスの種類をまとめる
4. 地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割（肥田）	P35-49　職種ごとの差異を理解する
5. 地域支援事業のなかでの理学療法士の役割（今岡）	P51-64　理学療法士の特徴を理解する
6. 事業企画に携わる理学療法士　関連職種の紹介（今岡）	P65-78　PDCA サイクルや事業企画を知る
7. 介護保険サービス下の理学療法士　（肥田）	P79-124　介護保険下のサービス内容をまとめる
8. 介護予防と健康増進①（今岡）	P125-139　1次予防・2次予防をまとめる
9. 介護予防と健康増進②（今岡）	P141-161　予防戦略の種類をまとめる
10. 住環境整備（住宅改修・福祉用具）（肥田）	P179-198　チェック箇所や視点をまとめる
11. 障がい者スポーツ（今岡）	P203-214　種類や対象となる人を理解する
12. 認知症　MCI　フレイル（今岡）	P233-255　認知症の背景基盤を理解する
13. ターミナルケア（肥田）	P301-304　死についてまとめる
14. 1～13　各授業の要点整理と振り返り（肥田）	P1-304　全体の振り返りを教科書で行う
定 期 試 験　（期 末）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート　%	■定期試験　80 %	□その他　%
	基準等	レポート20%		全て持ち込み不可	指定の地域活動への参加は出席扱いとする

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	細田多穂　監修	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト　改訂第4版	南江堂	2023
参考図書				
履修要件等	生活環境学を履修済みのこと			

オープンな 教育リソース	フレイルとその予防　https://youtu.be/HFTi2pTxkTw 認知症とその予防　https://youtu.be/TqAuUsvXSqc		
研究室	今岡：研究科棟４階　第 143 研究室 肥田：研究科棟４階　第 141 研究室	オフィスアワー	今岡：毎週水曜日　12：00～13：00 肥田：毎週月曜日　13：00～14：30

科目№	SCP05-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ（ＰＴ）	担当教員 E-Mail	峰久京子・今岡真和・岡健司・村上達典		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床実習	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床現場における実務経験があり，かつ臨床実習指導の経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価から治療までの流れについて、その考え方やまとめ方について指導する。
授業内容の要約	後期開講の臨床総合実習に向けて、学内科目の知識の整理や再確認を行う。また、2 年次の臨床検査測定実習での自己課題を振り返り、体験した内容を他の学生と共有し学ぶ。3 年次の臨床実習で中心になる評価技術にとどまらず、4 年生での臨床実習を見据えた治療学も念頭に置いた演習を行う。また、臨床実習前には事務手続きを含めた実習準備も行う。
学修目標 到達目標	1. 臨床総合実習Ⅰにおいて、理学療法学専攻学生として適切な態度がとれる 2. 代表的な疾患の検査測定を行い、得られた結果を考察し、問題点の抽出やプログラムの立案ができる 代表的な疾患の症例レポートやレジュメの作成方法・手順が理解できる
対面授業の進め方	臨床実習に関する内容を順次講義形式にて解説するとともに，感染対策を行ったうえで実技の練習、確認を並行して行う。常に、自己評価にとどまらず、他者評価の立場から他者への関わりを意識して、よく意見交換を行うようにグループワークを多用する。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. オリエンテーション、春休み課題の確認テスト、臨床総合実習について・実習手引きの確認。臨床検査測定実習（2 年次）時の自己課題の振り返りと確認	実習の手引き・2年次実習で得た課題を確認
2. 骨関節系疾患の症例レポート・レジュメの作成について①（模擬症例；グループワーク）	2 年次で作成したレジュメの確認と教科書「PT 症例レポート赤ペン添削」を読み、予習・復習をしてください
3. 小テスト①、神経系疾患の症例レポート・レジュメの作成について（模擬症例；グループワーク）	2年次で作成したレジュメの確認と教科書「PT 症例レポート赤ペン添削」を読み、予習・復習をしてください。
4. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク	当日は体調管理に努める
5. 小テスト②、講義と実技：標準予防策（p 16-20）・コミュニケーション技法（p 35-43）・脈拍と血圧の測定（p 140-156）	実技準備・教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。
6. 小テスト③、講義と実技： ROM 測定（p 172-193）MMT（p 194-216）	実技準備・教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。
7. 小テスト④、講義と実技：形態測定（p 227-241）・感覚検査（p 275-289）	実技準備・教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。
8. 小テスト⑤、実技：反射（p 291-301）・SIAS・BRS（p 312-330）	実技準備・教科書（評価学・OSCE）を読み予習・復習をして下さい。
9. 小テスト⑥、講義と実技： OSCE ブース①担当者特別授業	実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。
10. 小テスト⑦、講義と実技： OSCE ブース②担当者特別授業	実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。
11. 小テスト⑧、講義と実技： OSCE ブース③担当者特別授業	実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。
12. 小テスト⑨、OSCE ブース④担当者特別授業	実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。
13. 小テスト⑩、実技：OSCE 実践練習	提示された OSCE シナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練

	習をしてください。
14. 実技：OSCE 実践練習	提示された OSCE シナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習をしてください。

定期試験（OSCE・CBT を含む）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 30%	□レポート　　%	□定期試験　　%	☑その他　70%
	基準等	授業中の小テストおよびPT臨床実習前後問題CBT（全国偏差値40以上をとること）にて評価する			OSCE（客観的臨床能力試験）にて実習に必要な態度や実技の習熟度、基礎知識の理解度を問う

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	才藤栄一　監修	PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版補訂版 [WEB 動画付き]	金原出版	2020
	ヒントレ研究所編	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編（改定第 3 版）	南江堂	2024
	相澤純也、美崎定也、石黒幸治	PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター	羊土社	2016
		臨床実習の手引き		
参考図書				
履修要件等	実習ができる服装（ジーンズなど硬い生地や露出の高い衣類を避けて、大学指定のジャージ、または KC を着用）、適切な身だしなみ（頭髪・爪）にて参加してください。			
オープンな教育リソース				

研究室	峰久：1 号館 5 階　第 7 研究室 今岡：研究科棟 4 階　第 143 研究室 岡：1 号館 4 階　第 2 研究室 村上：1 号館 5 階　第 3 共同研究室	オフィスアワー	峰久：毎週木曜日　12：10～12：50 今岡：毎週水曜日　12：00～13：00 岡：毎週火曜日 12：10～13：00 村上：毎週金曜日　13：00～14：30

科目№	SCP08-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅰ（ＰＴ）	担当教員 E-Mail	峰久京子・今岡真和・岡健司・村上達典		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床実習	必　修	8　単位	後　期 (360h) 8週間

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床実習指導者講習会または理学療法士作業療法士養成施設等教員講習会を修了した，理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が協同して指導にあたる。
授業内容の要約	臨床実習施設において臨床実習指導者の指導監督の下、診療チームの一員となり、理学療法評価から理学療法までの実際を診療参加型臨床実習として行う。 臨床総合実習Ⅰは、主に情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの初期評価を中心に学び、臨床実習指導者の助言・指導・援助の下に理学療法を実施し、その検証を通して理学療法の理解を深める。
学修目標 到達目標	1. 理学療法のプロセスを理解することができる 2. 理学療法評価・理学療法の実際を学ぶ 3. 問題点を抽出し、臨床的推論を行うことができる 4. 指導の下で、基本的な理学療法が実施できる
対面授業の進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習であるので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。
遠隔授業の進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分程度
・ 8週にわたり、病院などで臨床総合実習を実施する。そのうち1週以上は通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションに関する見学実習を行う ・ 実習後にセミナーにて症例発表会を行う ・ 臨床実習指導Ⅲで明らかとなった自己課題に対する取り組みを評価する。 ・ 実習前評価として筆記試験、実習後評価として CBT を行う	・ 毎日の実習体験をデイリーノートやケースノートにまとめる。 ・ 実習報告会用のレジメを A3 用紙１枚にまとめる。症例に関する基礎知識を自己学習する。	

成績評価方法	項目	☑課題・小テスト　20%	□レポート　　%	□定期試験　　%	☑その他　80%
	基準等	実習前評価（筆記試験）と実習後CBT（全国偏差値40以上をとること）にて評価する			実習目標達成状況（臨床実習成果記録・実習報告セミナー、提出物等）を総合して判定する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		「臨床実習の手引き」		
		「臨床実習の手引き　理学療法学専攻版」		
参考図書	特に指定しない			

履修要件等	実習要件 3）を満たしていること
オープンな	

教育リソース			
研究室	峰久：1号館5階　第7研究室 今岡：研究科棟4階　第143研究室 岡：1号館4階　第2研究室 村上：1号館5階　第3共同研究室	オフィスアワー	峰久：毎週木曜日　12：10～12：50 今岡：毎週水曜日　12：00～13：00 岡：毎週火曜日 12：10～13：00 村上：毎週金曜日　13：00～14：30

科目№	SGR01-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	研究法（OT）	担当教員 E-Mail	上島　健（代表）、作業療法学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	卒業研究	必修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	臨床で働く作業療法士が、対象者の治療等を通して得られた疑問を検証していくことが重要である。本講義では、卒業研究の進め方、研究に関する流れ（目的、対象、分析、結果の解釈や統計的処理方法、考察）についてActive Learningにて理解を深め、学修成果として卒業研究に着手する。なお、研究においては、ICTを活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献検索・データーベース活用法等）、情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）、情報のアウトプットに関するもの（レポートや論文の読み方、論文の書き方、プレゼンテーション技法等）を学生が学修する。 卒業研究指導教員の指導のもと、研究テーマに沿って、実験計画、実験あるいは調査、文献検索などについて学生が学修する。本講義を履修することにより、3年次後期から4年次にかけての卒業研究、卒業論文に必要な研究の方法を学修することができるとともに、障がいに応じた治療計画の立案や結果が報告された論文の妥当性を検討することができることを学生が学修する。
学修目標 到達目標	1. 研究についての理解を深め、プロセスを説明することができる 2. 研究を行うための必要な基礎知識(基本的な統計処理)を理解することができる 3. 研究テーマに沿った文献検索と収集、研究計画の立案、題目設定ができる
対面授業の進め方	1. 前半6回は講義形式で実施し、後半2回は主査教員に配属されて演習指導を受ける。 2. 講義欠席時は、講義日より1週間以内に講義資料を担当教員の研究室へ取りに来ること。 3. 授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること
遠隔授業の進め方	Covid-19感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. ガイダンス、研究準備期【上島】(教科書p8～42) ICTを活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報を探索する方法（図書館利用法・文献検索・データーベース活用法等）	指定教科書の該当ページを確認する	
2～3. 研究企画期【上島】　(教科書p43～78) 情報を分析評価し整理する方法（情報処理、情報整理法等）	指定教科書の該当ページを確認する	
4～5. 研究実施・まとめ期【上島】　(教科書p79～119) 情報のアウトプットに関する方法（レポートや論文の書き方、プレゼンテーション技法等）	指定教科書の該当ページを確認する	
6. 研究成果期【上島】総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）　(教科書p120～151)	指定教科書の該当ページを確認する	
7～8. 卒業研究演習【各指導教員と密に連絡・相談・指導を受けながら研究計画に沿って進める】	主査教員に次回指導日時を確認し、研究計画を作成する。	
定 期 試 験		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	■定期試験　75%	■その他　　25%
	基準等			講義1～6は、科目担当教員が評価する。	講義 7～8 は、卒業研究の主査指導教員が取り組み状況を評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	山田実　他	PT・OT のための臨床研究はじめの一歩	羊土社	2016

参考図書	2021 年度　作業療法学専攻卒業研究発表会　要旨
	主査教員が随時指定する。
履修要件等	3 年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目の履修が望ましい。 4 年生の卒業研究発表会を視聴・聴講しておくことが望ましい。
オープンな教育リソース	

研究室	1 号館 5 階 第 14 研究室（上島）	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40-16:10（上島）

科目№	SOM01-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	作業療法管理学Ⅰ	担当教員 E-Mail	岸村　厚志		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法管理学	必修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場での責任者としての勤務経験、作業療法部門の顧問としての指導経験、専門学校での学科長・教務部長、一般企業での主任・営業所長の経験・一般社団法人大阪府作業療法士会での事務局長など管理の実務経験を基に、管理学の必要性について講義を行う。
授業内容の要約	医療・保健・福祉・教育行政など将来の職場となる組織の管理・運営について、また、作業療法の実践を行う医療従事者としての責務と行動範囲や倫理問題について学ぶ。 作業療法における管理学の位置づけ、作業療法とマネジメント、組織の中の作業療法士の役割、チーム医療・多職種連携とコミュニケーション、診療報酬と記録の管理、作業療法部門の業務管理、職場倫理、諸制度、作業療法臨床実習の管理・運営と指導法などを理解する。
学修目標 到達目標	1. リハビリテーション医療、特に作業療法部門でなぜ管理・運営学が必要か、その理由は何か、理解できる。 2. 作業療法とマネジメント、 組織とは・情報のマネジメントについて理解できる。 3. 組織の中の作業療法士の役割が理解できる。 4. チーム医療・多職種連携とコミュニケーションの必要性が理解できる。 5. 診療報酬と記録の管理が理解できる。 6. 医療サービスの提供と医療安全のマネジメントについて理解できる。
対面授業の進め方	・教科書、配布資料、パワーポイントを用いた講義と学生同士のディスカッションを中心に、一部演習も取り入れる。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にてオンライン授業を行う。併せてメール通信による課題の提示については、担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 作業療法におけるマネジメント（講義）	教科書・配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと	
2. 組織の成り立ちとマネジメント（講義）	同上	
3. 情報のマネジメントと医療サービス（講義）	同上	
4. 医療安全のマネジメントについて①（講義・演習）	同上	
5. 医療安全のマネジメントについて②（講義）	同上	
6. 医療事故報告書（講義・演習）	同上	
7. TP-KYT システム（講義・演習）	同上	
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　70%	■レポート　0%	□定期試験　30%	■その他　0%
	基準等	毎回の課題か小テスト各10点×７回分			

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	大庭　潤平　編著	作業療法管理学入門　第２版	医歯薬出版株式会社	2021
参考図書	1. 日本リハビリテーション医学会	「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」第２版	診断と治療社	2018
	2. 金谷　さとみ 高橋　仁美	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	メジカルビュー社	2018
	3. 高木　綾一	リハビリテーション職種のマネジメント	(株)シービーアール	2018
	4. 内山靖・他	安全管理学・救急医療学	医歯薬出版株式会社	2021
履修要件等	普段から医療・保健・福祉機関の組織形態や管理・運営について考えること			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館１階　作業療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日　16：20～17：00	

科目№	SOT02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	担当教員 E-Mail	上島　健		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(27年間)のある教員が、その経験を生かして、運動器系障害を中心とした作業療法における基本的な知識と手法について講義する。
授業内容の要約	身体障害領域の作業療法について、運動器系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を理解する。本講義では、運動器系障害(上肢や下肢の骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、末梢神経障害、熱傷等)を中心とした疾患別作業療法を学修し、作業遂行を阻害する要因を分析し、運動学習の理論に基づき、運動や知覚の再学習する支援過程について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学生が学修する。 本講義を履修することにより、学生が障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。
学修目標 到達目標	1. 運動器系身体障害の作業療法について理解する 2. 運動器系身体障害に対する作業療法評価と治療・訓練・援助の実際について理解する 3. OTSとして運動器系身体障害者を担当できる基礎知識と基礎技術を修得する
対面授業の進め方	・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、DVD等も用いる ・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・後期に履修する臨床総合実習Ⅰに向け、下記以外の疾患についても治療を応用して実施する ・授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること
遠隔授業の進め方	Covid-19感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. ガイダンス、頚椎症性脊髄症（教科書p157～）	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
2. 手の骨折(教科書p169-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
3. 手指屈筋腱損傷(教科書p192-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
4. 手の末梢神経損傷(教科書p219-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
5. 熱傷(教科書p288-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
6. 総括	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
7. 関節リウマチ(教科書p374-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
8. 多発性筋炎・皮膚筋炎(教科書p401-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
9. パーキンソン病(教科書p412-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
10. ギランバレー症候群(教科書p425-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
11. 脊髄小脳変性症(教科書p435-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
12. 多発性硬化症・筋委縮性側索硬化症(教科書p449-、p461-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
13. 廃用症候群・大腿骨頚部骨折(教科書p525-)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
14. 総括	指定教科書の確認	
定期試験（期末レポート）		
15. 身体障害における治療・援助（教科書p18-） 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	指定教科書の確認	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート 20%	■定期試験 75%	■その他 5%
	基準等		Active Learningを行った成果としてのレポートを評価（次回の授業開始時が提出期限）	本試験、再試験は筆記試験により評価する。	授業中態度、アクティブラーニング関与度

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	長﨑重信	作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学（第 3 版）[Web 動画付き]	メジカルビュー社	2022
参考図書	小林隆司	PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 1　骨関節・神経疾患編	羊土社	2018

履修要件等	2 年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価を経験した上での学修)。		
オープンな教育リソース			
研究室	上島：1 号館 5 階　第 14 研究室	オフィスアワー	上島：毎週木曜日　14:40～16:10

科目№	SOT03-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	担当教員 E-Mail	上島　健		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(27年間)のある教員が、その経験を生かして、中枢神経系障害の作業療法における基本的な知識と手法について講義する。
授業内容の要約	身体障害領域の作業療法について、中枢神経系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を学生が理解する。本講義では、中枢神経系障害を中心とした医学的知識を元に、各種疾患における回復段階に合わせた作業療法支援について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学修する。この中には、作業療法を遂行する上で必要とされる喀痰等の吸引に関する内容も含み、Active Learning にて学生が理解を深める。 本講義を履修することにより、障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。
学修目標 到達目標	1. 中枢神経系障害の評価、治療・支援について理解ができる 2. 身体障害領域の疾患特性、中枢神経系の作業療法治療過程で不明な点を自ら調べることができる 3. 作業療法学生として、臨床実習に耐えうる基礎知識、基礎技術の習得ができる
対面授業の進め方	・講義資料を綴り込むファイル(2つ穴、厚さ3cm程度)を準備すること。講義欠席時は、担当教員の研究室入口に資料を置くので、講義終了から翌週の講義までに、自ら取りに来ること。 ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、DVD等も用いる ・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・授業に関連するルール（出欠・成績等）は、初講日に説明するので遵守すること。
遠隔授業の進め方	Covid-19 感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う)。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. ガイダンス、基礎編:概論(身体障害、目標設定、教科書 p14-21)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
2. 脳卒中(疾患概要等、教科書 p80-112)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
3. 脳卒中(評価等、プログラム等、教科書 p80-112)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
4. 脳卒中(治療等、Active Learning、教科書 p80-112)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
5. 脊髄損傷（疾患概要等、教科書 p113-134)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
6. 脊髄損傷（評価等、教科書 p113-134)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
7. 脊髄損傷（プログラム等、教科書 p113-134)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
8. 脊髄損傷（治療等、Active Learning、教科書 p113-134)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
9. 治療介入(教科書 p22-61)	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
10. 喀痰等の吸引の総論（非常勤講師：調整中）	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
11. 喀痰等の吸引の演習（非常勤講師：調整中）	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
12. 脳卒中の作業療法・実技、Active Learning	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
13. 脊髄損傷の作業療法・実技、Active Learning	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
14. 試験前総括	指定教科書の確認、授業後の課題レポート	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	試験内容の復習を行うこと	

				臨床実習に向けた準備を行う	
成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	■レポート 5%	■定期試験 70%	■その他 25%
	基準等		Active Learningを行った成果としてのレポートを評価	本試験、再試験は筆記試験により評価する。	授業中の態度、Active Learning 関与度

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	小林隆司	PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学１　骨関節・神経疾患編	羊土社	2018
参考図書	高見彰淑	セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用	メジカルビュー社	2020
履修要件等	２年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価の模倣を経験した上での学修)。			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階 第 14 研究室（上島）	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40-16:10	

科目№	SOT06-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	生活環境・行為分析学実習	担当教員 E-Mail	岸村　厚志・中越　雄也		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域の回復期・生活期において生活行為の改善や生活環境の調整の実務経験があり、現在も回復期リハビリテーション病院において、これらの技術指導を行っている。
授業内容の要約	対象者が望む生活行為を再獲得させるには、できない行為をできる行為に調整しなければいけない。その評価が、できるADLの評価である。できるADLの評価を行うためには、標的とする行為の工程を分析し、その工程毎に必要な要素を理解し、できない要因を見極める必要がある。その要因を解決する方法が、環境（人・福祉用具・住環境など）であったり、新しい方法だったりする。それでもその行為に時間がかかりすぎる場合や、もっと環境の要素を減らしたい場合などに身体機能面を改善させることでその行為の満足度が高まることになる。その流れの一部を経験する。
学修目標 到達目標	1. できるADLの評価の仕方が説明できる 2. 各動作介入の模倣ができる。 3. 事例に対して介入プランが立案できる。
対面授業の進め方	復習を中心とした講義と、先行研究の事例報告に基づき、その介入方法を実際にグループで模倣する。
遠隔授業の進め方	teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　オリエンテーション・生活環境・行為の治療をするにあたって	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
2.　治療理論（学習理論）	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
3.　治療理論（応用行動分析学）	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
4.　評価の視点：AMPS　【中越】	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
5.　評価の視点：できるADL（グレーディング・無誤学習）	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
6.　介入プログラムの立案の仕方	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
7.　寝返り起き上がり動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
8.　坐位・立位動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
9.　移乗動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
10.　移動動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
11.　食事動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
12.　更衣動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
13.　排泄動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
14.　入浴動作	振り返りレポートA4サイズ1枚以内	
定期試験（期末レポート）		
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　42%	□定期試験　58%	□その他　%
	基準等		1～14回の振り返りレポート、内容により3段階評価（各3点）	定期試験は筆記試験で実施する。	

<table>
<tr><td rowspan="3">教科書</td><td>著者</td><td>タイトル</td><td colspan="2">出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>濱口豊太</td><td>標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学　第２版</td><td colspan="2">医学書院</td><td>2022</td></tr>
<tr><td>山﨑裕司
山本淳一</td><td>リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ　第３版</td><td colspan="2">三輪書店</td><td>2019</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参考図書</td><td>濱口豊太</td><td>標準作業療法学　専門分野　基礎作業学
第３版</td><td colspan="2">医学書院</td><td>2017</td></tr>
<tr><td>鈴木誠</td><td>脳卒中の教科書
やさしく理解できるリハビリテーション</td><td colspan="2">ヒューマン・プレス</td><td>2019</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">岸村：１号館１階　作業療法学専攻長室
中越：１号館５階　第２共同研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">岸村：毎週月曜日　16：20～17：00
中越：毎週火曜日　12：10～13：00</td></tr>
</table>

科目№	SOT07-3R	授業形態	講義・実習	開講年次	3年次
授業科目名	義肢装具学（含実習）	担当教員 E-Mail	田丸　佳希		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域（ハンドセラピー）で実務経験がある教員が、その経験を生かして義肢装具の基礎知識、また Splint の作成を含めて指導する。
授業内容の要約	当該科目は、本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な知識を充分身につけた人」を達成するための専門科目です。義肢の適応（切断の知識・義手構成の知識・チェックアウト）、Splint の名称と適応・Splint の作成を経験する。
学修目標 到達目標	1.　義手・Splint の基礎知識（名称・機能・操作等）について説明が出来る。 2.　上腕義手・前腕義手の適応について評価し、その原因を評価することが出来る。 3.　Cockup-Splint・Short-Opponens-Splint の作成が出来る。
対面授業の進め方	授業内は、基礎知識の注入は導管モデルとなるが、各授業の後半ではアクティブラーニングを用いた振り返りと学習進捗状況の確認を行う。また、実技では各学生 2 つの作品を作成する。授業後半コマでは義肢装具の振り返りについてブレインストーミングやラウンドロビンを用いて実施する。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1.　オリエンテーション	各授業計画に合わせて教科書で予習をする	
2.　義肢装具学の概要	義肢装具の歴史や成り立ちについて学習する	
3.　装具と切断	切断部位の名称を学習する	
4.　装具の構成要素	義手を構成している部品の名称を学習する	
5.　義手のチェックアウトⅠ	前腕義手のチェックアウト項目を学習する	
6.　義手のチェックアウトⅡ	上腕義手のチェックアウト項目を学習する	
7.　Splint の役割とその種類Ⅰ	Splint の適応について学習する	
8.　Splint の役割とその種類Ⅱ	Splint の特徴と名称を学習する	
9.　Short-Opponens-Splint の作成Ⅰ	短対立装具の作成手順を学習する	
10.　Short-Opponens-Splint の作成Ⅱ	ポリフレックスⅡを用いて作成し学習する	
11.　Cockup Splint の作成Ⅰ	Cockup sprit の作成手順を学習する	
12.　Cockup Splint の作成Ⅱ	ポリフレックスⅡを用いて作成し学習する	
13.　下肢装具の種類と適応	下肢装具の名称と使用方法について学習する	
14.　義手装具学のまとめ	各コマでの重点項目を整理し学習する	
定 期 試 験		
15.　総括及びフィードバック	定期試験の講評・解説	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			筆記試験を実施する	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	古川宏	作業療法学全書　義肢装具学	協同医書出版社	2009
参考図書	特に指定しない			
履修要件等				

オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目№	SOT08-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	高次脳機能作業療法学	担当教員 E-Mail	水野　貴子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必　修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で21年の臨床経験のある教員がその経験を活かして、高次脳機能障害の症状と治療技法を講義し、対象者への対応について指導する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、3年次のカリキュラム・ポリシーを達成するために必要な科目である。 脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、講義と治療の方法を考察しながら実施し、高次脳機能障害の治療について理解できるようにする。
学修目標 到達目標	1. 対象者の症状から高次脳機能障害の特徴を推測できる 2. 高次脳機能障害の作業療法の流れ（情報収集—評価—統合と解釈—目標設定—治療）を理解することができる 3. 高次脳機能障害に対する治療の立案と実施ができる
対面授業の進め方	講義（講義資料を随時配布、パワーポイント使用） アクティブラーニング（治療の実施、症例検討） 高次脳機能評価学を復習しておくこと。
遠隔授業の進め方	講義ではMicrosoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 高次脳機能障害の作業療法（教科書pp26-36）	高次脳機能評価について復習すること	
2. 注意障害の作業療法（教科書pp47-55、128-139、174-183、242-248）	注意障害について復習すること	
3. 半側空間無視の作業療法（教科書pp112-125、223-240）	半側空間無視について復習すること	
4. 記憶障害の作業療法（教科書pp56-65、184-191）	記憶障害について復習すること	
5. 認知症の作業療法（教科書pp155-168、258-265）	認知症について復習すること	
6. 失語・失行・失認の作業療法（教科書pp69-107、194-222）	失語・失行・失認について復習すること	
7. 症例検討	1-6回の復習をすること	
定 期 試 験		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	高次脳機能障害の治療の流れを復習すること	

成績評価方法			
	項目	■　小テスト　10%	■　定期試験　90%
	基準等	復習のための小テスト（6回）を実施し、 授業の内容についての理解度を評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	能登　真一	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学　第2版	医学書院	2019
参考図書	石合　純夫	高次脳機能障害学　第3版	医歯薬出版	2022
	藤田　郁代　他	標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学 第3版	医学書院	2021
	本田　哲三	高次脳機能障害のリハビリテーション 実践的アプローチ第3版	医学書院	2016
	渕　雅子	作業療法学全書　改訂第3版　第8巻 作業療法学5　高次脳機能障害	協同医書出版	2011

履修要件等	「高次脳機能評価学」が履修済であることが望ましい。		
オープンな 教育リソース			
研究室	１号館４階　第５研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：10～12：50

科目№	SOT10-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害作業療法学	担当教員 E-Mail	中越　雄也		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必　修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域における急性期、回復期、維持期、地域での作業療法への経験がある教員が、12年の実務経験を生かし、内部障害に対する作業療法の知識と方法について講義する。
授業内容の要約	内部障害を呈した対象者への作業療法を、基本的な知識と統合しながら理解し、リスク管理に配慮しながら、対象者の方の人生を支える作業療法が行えるように学修する。
学修目標 到達目標	1. 作業療法の対象となる内部障害の概念と種類を知る 2. 内部障害に対する評価と作業療法の概略を述べることができる 3. 内部障害に対してリスク管理ができる
対面授業の進め方	資料を用いた講義と臨床推論を求める課題で進める。 Active learning を図るために反転授業を取り入れた講義をする。 解剖学・生理学・病理学・内科学などの基本的な知識の復習を行うことが望ましい。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 第 1 回～ 7 回は遠隔で授業を行い、第 8 回はセクションの まとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 内部障害の概論と、リスク管理（教科書 pp14~21、39~47）	概論とリスク管理について理解する	
2. 呼吸器疾患に対する評価と作業療法（教科書 pp26~29、48~54、86~109）	呼吸器疾患について理解する	
3. 心疾患に対する評価と作業療法（教科書 pp21~37、54~60、110~130）	心疾患について理解する	
4. 下部尿路機能障害に対する評価と作業療法（教科書 pp68~69、196~215）	下部尿路機能障害について理解する	
5. 糖尿病に対する評価と作業療法（教科書 pp65~68、176~195）	糖尿病について理解する	
6. サルコペニアに対する評価と作業療法　（教科書 pp63~64、158~175）	サルコペニアについて理解する	
7. 終末期疾患による人生の最終段階への作業療法（教科書 pp60~63、131~157）	がんなどの終末期疾患について理解する	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法					
	項目	☑課題・小テスト　10%	☑レポート　20%	☑定期試験　60%	☑その他　10%
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	レポート課題があり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	小林隆司	PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学２　内部疾患編	羊土社	2018
参考図書	山口昇 他	標準作業療法学　専門分野 身体機能作業療法学　第４版	医学書院	2021
	石川齊 他	図解作業療法技術ガイド　第４版	文光堂	2021

履修要件等	内科学を履修していることが望ましい		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00

科目№	SOT12-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	精神機能作業療法学	担当教員 E-Mail	白岩　圭悟・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	教員の臨床現場の実務経験（14年）を基に、精神医療・保健・福祉の現状を説明し、精神科リハビリテーションの一分野である精神機能作業療法の位置づけと意義、そして疾患別及び対象者の回復状態に応じた作業療法の流れ（評価・介入・成果）を講義する。さらに地域支援の活動の紹介、就労援助などについて症例を通じて学修する。また、対象者への対応の仕方についても演習する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神保健福祉対策の概要を学ぶとともに精神障害作業療法の機能、役割、実践と疾患別アプローチへの理解を深める
学修目標 到達目標	1.　精神障害作業療法を実践するために必要な基礎知識、治療・訓練・援助の内容、方法を学修し説明できる 2.　評価を実施するために必要な基礎的な知識を身に付けることができる 3.　疾患・障害の特性を理解し、疾患・障害に対する作業療法が修得できる 対象者の回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画、実施が修得できる
対面授業の進め方	1.　疾患像をイメージできるよう動画資料・教科書・配布資料を媒体にした授業形態で進める 理解の状況・程度に応じた質疑応答とディスカッションを行う
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 精神科医療の歴史と法制度（教科書②p35～p132、資料・VTR）	教科書（②p35～p132 を読んでおくこと）
2. リカバリーと精神障害作業療法の概要（教科書②p3～p28）	講義で配布した資料を再度復習し、さらに知識を深めるため文献調査しノートにまとめること
3. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序１（教科書②p85～p121～p28）	講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
4. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序２（教科書②p122～p154）	講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
5. 各病期における精神科作業療法（（教科書②p220～p249）	講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
6. 疾患別作業療法１：統合失調症にともなう障害と作業療法（教科書①p66～p110）	講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
7. 疾患別作業療法２：気分障害（うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）	講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
8. 疾患別作業療法３：気分障害（躁うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）	講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
9. 疾患別作業療法４：神経症性障害に対する作業療法と小テスト（教科書①-151-177）	講義で配布した資料、及び教科書を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと

10. 疾患別作業療法５：摂食障害に対する作業療法と小テスト（教科書①p178～p187）	講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
11. 疾患別作業療法６：依存症に対する作業療法と小テスト（教科書①p188～p215）	講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
11. 疾患別作業療法６：境界例パーソナリティ障害に対する作業療法と小テスト（教科書①p216～p225）	講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
13. 疾患別作業療法５：認知症および自閉症スペクトラム障害に対する作業療法と小テスト（教科書①p226～p276）	講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと
14. 関連療法と小テスト（教科書②p342～p369）	教科書を再度復習し、ポイントをまとめておくこと
定 期 試 験	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	知識不足な部分、理解不十分な部分等再度復習し、まとめておくこと

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート　　%	■定期試験　70%	■その他　10%
	基準等	国試過去問小テストの実施（授業結果の振り返り）		定期試験を実施。 講義の内容全般、および国試過去問より理解度を評価する。	授業への参加と取り組み姿勢

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	堀田英樹　編著	精神疾患の理解と精神科作業療法 第３版	中央法規出版	2020
	山根寛	精神障害と作業療法　　新版	三輪書店	2017
参考図書	早坂友成	精神科作業療法の理論と技術	メジカルビュー社	2018
履修要件等	心理学・臨床心理学・精神医学・精神障害評価学・精神障害臨床評価学実習などの知識が必要です。			
オープンな教育リソース				
研究室	白岩：１号館５階　第 13 研究室 増澤：１号館５階　共同研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日　12：10～13：00 増澤：毎週木曜日　12：10～13：00	

科目№	SOT13-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	精神機能作業療法学実習	担当教員 E-Mail	白岩　圭悟・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1　単位	前　期 (45h)

教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での14年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者の支援に役立つ作業療法でのプログラム立案、実施の方法について、実践的な視点を中心に指導する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。作業療法実施に必要な疾患別の治療技術・知識と、対象者に応じた治療プログラム立案から実施に至る流れを習得する。
学修目標 到達目標	1. 精神機能作業療法の治療理論を理解し、説明できる 2. 疾患別作業療法の治療技術を習得し、目的に応じた治療プログラムを立案できる 3. 対象者に応じた作業療法評価から治療プログラム立案を行い、実施に至る工程を説明できる。
対面授業の進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では小グループに分かれて、症例を用いたアクティブラーニングを行い、臨床の場において疾患の特徴に合わせた治療プログラムの作成及び実施能力を、実習を通して養う。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 事例検討―統合失調症　評価計画立案	予習：教科書①p76-86 を読む
2. 事例検討―統合失調症　治療計画立案	グループ討議
3. 事例検討―統合失調症　効果判定・症例レジュメ作成	レポート 1.事例をＡ３ １枚にまとめる
4. 事例検討―気分障害　評価計画立案	予習：教科書①p111-144 を読む
5. 事例検討―気分障害　治療計画立案	グループ討議
6. 事例検討―気分障害　効果判定・症例レジュメ作成	レポート 1.事例をＡ３ １枚にまとめる
7. 総合問題演習①　精神医学・臨床心理学	予習：１年次～２年次の復習
8. 総合問題演習②　精神機能評価学	予習：２年次の復習
9. 総合問題演習③　統合失調症	予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習
10. 総合問題演習④　気分障害・神経症性障害	予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習
11. 総合問題演習⑤　依存症候群（物質使用障害）・摂食障害	予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習
12. 総合問題演習⑥　その他の疾患・地域/就労支援	予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習
13. 治療プログラム実践―説明・資料収集	予習：精神機能作業療法学の復習
14. 治療プログラム実践―計画立案	復習：時間内に終わらなかった内容
15. 治療プログラム実践―準備	レポート 2-1：授業終了時には治療計画書提出
16. 治療プログラム実践―練習	復習：次週実施できるように準備しておく
17. 治療プログラム実践―実施	レポート 2-2：治療プログラム実施報告書作成
18. 治療プログラム実践―体験①	
19. 治療プログラム実践―体験②	レポート 2-3：プログラム体験の感想
20. 治療プログラム実践―観察評価	レポート 2-4：対象者の観察記録提出
21. 治療プログラム実践―振り返り・プログラムの見直し	レポート 2-5：治療プログラム修正

22. 対象者と関わる上で重要なこと（まとめ・講義）	
定 期 試 験	
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■小テスト　15%	■レポート　　40%	■定期試験　　35%	■その他　　10　%
	基準等	総合問題演習は、毎回試験を実施する。	グループワーク課題の内容（思考過程と計画内容）を評価する 1.症例報告書レジュメ2種 2-1治療プログラム 2-2実施報告書 2-3治療体験感想 2-4観察記録 2−5治療プログラム修正版	国家試験に準ずる問題を実施する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	堀田英樹　編著	精神疾患の理解と精神科作業療法 第３版	中央法規出版	2020
	山根寛	精神障害と作業療法　新版	三輪書店	2018
参考図書	冨岡詔子　他	作業療法学全書　改訂第３版　第５巻 作業治療学２　精神障害	協同医書出版社	2010

履修要件等	精神医学、精神機能作業療法評価学実習、臨床検査・測定実習を履修していることが望ましい
オープンな教育リソース	

研究室	白岩：１号館５階　第 13 研究室 増澤：１号館５階　共同研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日　12：10〜13：00 増澤：毎週木曜日　12：10〜13：00

科目№	SOT14-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	応用作業治療学実習	担当教員 E-Mail	武井　麻喜・水野　貴子・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1　単位	前　期（45h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員を中心に、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法、治療への適用についての指導をする。さらに、生活行為向上マネジメントについての考え方と手法について実践を通して指導する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、3年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための中心となる科目である。 応用作業分析学実習で学んだ知識を基にして、作業療法の臨床現場で用いられている作業活動を挙げてその特性とともに、種々の治療理論および疾患や症状に合わせた分析を実施する。その作業が用いられる場面や障害の程度による治療的な機能とその効果、能動的および受動的な効果、年齢や性別、気質による個人的効果など多面にわたり分析することで、個人の特性にあわせて作業活動を選択し適用することについて学修する。 また「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践実習していく。アセスメント、プランニング、実践を通し、作業は人を元気にすることを学修する。
学修目標 到達目標	1. 種々の治療理論および疾患や症状に合わせた作業分析が実施できる 2. 個人の特性にあわせて作業活動を選択し治療に適用することができる 3. 「生活行為向上マネジメント」の概要を理解し説明できる 4. 対象者の“意味ある作業”を見つけ支援することの重要性について理解する
対面授業の 進め方	前半は講義後に作業活動実習と分析、グループ討論を行う。 後半は学生同士がペアになって、お互いに生活行為向上プログラムの手法を実践していく。 「楽しく真剣に」取り組むこと。
遠隔授業の 進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. あんでるせん手芸：かご①	復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成	
2. あんでるせん手芸：かご②	復習：あんでるせん手芸のレポート作成	
3. あんでるせん手芸：かご③	復習：あんでるせん手芸のレポート作成	
4. あんでるせん手芸：かご④	復習：ネット手芸についてのレポート作成、治療目的・方法の把握	
5. ネット手芸：小物入れ①	復習：ネット手芸についてのレポート作成	
6. ネット手芸：小物入れ②	復習：ネット手芸についてのレポート作成	
7. ネット手芸：小物入れ③	復習：ネット手芸についてのレポート作成	
8. ネット手芸：小物入れ④	復習：ネット手芸についてのレポート作成、治療目的・方法の把握	
9. 革細工：コースター①	復習：革細工についてのレポート作成	
10. 革細工：コースター②	復習：革細工についてのレポート作成	
11. 革細工：コースター③	復習：革細工についてのレポート作成	
12. 革細工：コースター④	復習：革細工についてのレポート作成、治療目的・方法の把握	

13. セラプラスト、ペグボード、輪なげ、ボール	復習：輪なげ、ボールの種類、セラプラストなどの種類と治療目的・方法の把握
14. 生活行為向上マネジメントについて	
15.「事前情報」「生活行為の目標」聞き取り	
16. 生活行為向上アセスメント演習シート	
17. 生活行為向上プラン演習シート	
18. 生活行為向上プログラムの実践①	生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること
19. 生活行為向上プログラムの実践②	生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること
20. 生活行為向上プログラムの実践③	生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること
21. 生活行為向上プログラムの実践④	生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること
22. 生活行為向上プログラムの実践⑤	生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること
23. 生活行為向上プログラム終了時アセスメントと総括	

成績評価方法					
	項目	■課題　50　%	■レポート　40　%	□定期試験　%	■その他　10　%
	基準等	後半、各シートの記載内容、実践記録内容、報告書内容を評価する。	前半、各作業活動でレポートを課し、与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する。		前半、各作業活動の作品を提出。作成方法についての理解度を評価する。 後半、プログラムの実践状況（態度）を評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考図書	浅沼辰志	作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　作業学　第３版	メジカルビュー社	2021
	山根寛	ひとと作業・作業活動　新版	三輪書店	2015
	濱口豊太	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学　第３版	医学書院	2017
	澤田雄二	作業療法学全書　改訂第３版　第２巻 基礎作業学	協同医書出版	2009
	日本作業療法士協会	作業療法マニュアル 75　生活行為向上マネジメント　改訂第４版	日本作業療法士協会	2022
	日本作業療法士協会	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第２版	医歯薬出版	2021

履修要件等	「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」「応用作業分析学実習」が履修済であることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	武井：１号館５階 第 18 研究室 水野：１号館４階 第５研究室 増澤：１号館５階　第２共同研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日　12:10～13:00 水野：毎週水曜日　12:10～12:50 増澤：毎週木曜日　12:10～13:00

科目№	SRO02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域作業療法学	担当教員 E-Mail	中越　雄也・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	地域での訪問作業療法や予防医学的リハビリテーション、就労支援領域の作業療法への経験のある教員が、10年以上の実務経験を生かして地域に根ざした作業療法の知識と方法について講義する。
授業内容の要約	誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けるために、適宜適切なサービス提供を行う必要がある。事例から地域に根ざした作業療法を知り、自身の住み慣れた地域を通して作業療法の理解を深める。
学修目標 到達目標	1.　地域包括ケアシステムの概要を理解し、各領域における相互作用を理解することができる 2.　地域での作業療法士が関わる具体的な支援策を理解することができる
対面授業の進め方	講義形式を中心として、臨床推論を求める課題も併用しながら、適宜グループ演習なども加える。リハビリテーション概論や社会保障制度、生活環境学などの復習を行うことが望ましい。
遠隔授業の進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　地域に根ざした作業療法の概要、地域包括ケアシステムについて	授業終わりに適時、予習課題を提示し、次回の授業までの遂行を求めます。 12 回目の授業までに、『自身が住んでいる地域や環境に関するレポート』の提出を求めます。	
2.　事例を通して地域に根ざした作業療法を知る・考える　①		
3.　事例を通して地域に根ざした作業療法を知る・考える　②		
4.　地域での生活や、作業を支えるための住環境の調整　①		
5.　地域での生活や、作業を支えるための住環境の調整　②		
6.　地域での生活を支えるための社会資源と多職種連携		
7.　精神領域の地域作業療法（増澤）		
8.　作業療法に重要な社会保障制度（介護保険制度）		
9.　作業療法に重要な社会保障制度（医療保険制度と、障害者総合支援法）		
10.　地域での生活を支えるための福祉用具　①		
11.　地域での生活を支えるための福祉用具　②		
12.　住み慣れた地域で生活をするための作業療法を考える　①		
13.　住み慣れた地域で生活をするための作業療法を考える　②		
14.　就労支援における作業療法（増澤）と、予防作業療法について		
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%	■レポート　20　%	■定期試験　　75　%	■備考
	基準等	適時、授業にて臨床推論を求める課題を課す	自身が住んでいる地域や環境に関するレポートを課す	期末試験期間に筆記試験を課す。	レポート、授業態度など総合的に判定する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	小林法一 小林隆司	最新作業療法学講座 地域作業療法学	医歯薬出版株式会社	2024
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する			

履修要件等	2年次までの作業療法評価学を履修していることが望ましい		
オープンな 教育リソース			
研究室	中越：1号館5階 第2共同研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	中越：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00

科目№	SRO03-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	地域作業療法学演習	担当教員 E-Mail	中越　雄也・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	地域での訪問作業療法や予防医学的リハビリテーション、就労支援領域の作業療法への経験のある教員が、10年以上の実務経験を生かして地域に根ざした作業療法の知識と方法について講義する。
授業内容の要約	地域作業療法領域に関連する事例報告の文献を読み、グループ活動でのディスカッションを併用しながら、抄録作成・提出、発表、質疑応答を行うことで、Active learning による学習を行う。
学修目標 到達目標	1. 事例報告を通して、地域における作業療法士の具体的な評価や介入を知る 2. 具体的支援策を熟考し、質問できる 3. 事例報告に対して、批判的吟味をすることができる
対面授業の進め方	文献検索や、抄読、抄録作成に必要な知識は、適時、講義形式で教授する。アクティブラーニングを図るために、文献検索や、抄録の作成、補足説明資料の作成を授業時間内にも行いながら、学生間でディスカッションを行ったり、担当教員への質問を求めたりする。
遠隔授業の進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　オリエンテーション 演習の概要と、成績評価のためのルーブリックを開示する	テーマに沿ったグループ分けのためのアンケートへの回答を求める	
2.～4.　文献の検索と抄読 教科書の『地域作業療法の実践例』の大項目に関連した作業療法事例報告の文献検索と抄読を行う。 例：通所リハビリテーション、訪問作業療法、特別支援学校、精神障害者の地域生活移行、介護予防事業など	文献検索と抄読	
5.～10.　文献抄録と補足説明資料、ポートフォリオの作成 グループで、情報交換を行いながら、文献抄録と補足説明資料の作成を行っていく。	抄録と補足説明資料の作成	
11.～14.　文献抄録の発表と、質疑応答 発表内容に関する質疑応答、グループディスカッション	発表抄録に関する質問を考えておく	
15.　総括及び発表の補足（全講義の振り返り）		

成績評価方法	項目	□課題　　%	■レポート　　70%	□定期試験　　%	■その他　　30%
	基準等	無	発表用の抄録および補足説明資料、ポートフォリオの作成と提出を課す。	無	抄録の発表と、質疑応答、他学生の発表への質問状況などから総合的に判定する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	小林法一 小林隆司	最新作業療法学講座 地域作業療法学	医歯薬出版株式会社	2024

参考図書	適宜　資料配布
履修要件等	地域作業療法学を履修済

オープンな 教育リソース			
研究室	中越：1 号館 5 階 第 2 共同研究室 増澤：1 号館 5 階 第 2 共同研究室	オフィスアワー	中越：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00

科目№	SCP05-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ（OT）	担当教員 E-Mail	白岩　圭悟・田崎　史江		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	臨床実習	必　修	1　単位	前期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で臨床経験のある教員がその経験を活かして、臨床的な作業療法に必要な知識と手法について講義・指導する。
授業内容の要約	臨床総合実習Ⅰで求められる目標設定、治療立案及び作業療法実施について学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 2年次の臨床検査・測定実習で得た情報や学んだ知識を全体で共有することができる。 2. 対象者に合わせた目標・治療を適切に立案することができる。 3. 臨床総合実習Ⅰに向けて、知識・技術を自発的に修得しようと努めることができる。
対面授業の進め方	講義とアクティブラーニング（症例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）を行う。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 4/11　オリエンテーション、3年次のクラス目標の設定	シラバス内容の確認	
2. 4/18　臨床検査測定実習の振り返り、自己課題の確認	検査・測定実習時の自己課題を書き出す	
3. 4/25　卒業研究発表会聴講	発表要旨集を読み、興味ある研究に質問を考える	
4. 5/2　レクリエーション（クラス行事）	クラス全員が参加し、協力して取り組む	
5. 5/9　臨床総合実習Ⅰの準備学修計画を話し合う	検査測定実習で必要と感じたことを書き出す	
6. 5/16　各疾患の検査・測定、OT内容を考える（グループワーク）	グループで話し合い、プレゼン資料を作成する	
7. 5/23　各疾患の検査・測定、OT内容をプレゼンする	グループでプレゼン準備、練習を行う	
8. 5/30　検査・測定の復習と練習1（インテーク面接 他）	インテーク面接を復習する	
9. 6/5　検査・測定の復習と練習2（ADL動作の観察と記録①）	動作分析と評価学の教科書を熟読する	
10. 6/13　検査・測定の復習と練習3（ADL動作の観察と記録②）	動作分析と評価学の教科書を熟読する	
11. 6/20　検査・測定の復習と練習4（ROM、MMT、身体計測）	評価の実技練習を繰り返し行う	
12. 6/27　OTレクリエーション活動の企画（グループワーク）	クラスの話し合いに参加し、意見を出し合う	
13. 7/4　OTレクリエーション活動の発表①（グループワーク）	クラス全員が参加、協力して準備に取り組む	
14. 7/11　OTレクリエーション活動の発表②（グループワーク）	クラス全員が参加、協力して準備に取り組む	
15. 8/1　臨床総合実習Ⅰ前準備①	臨床実習の手引きを予め熟読しておく	

成績評価方法			
	項目	■課題・レポート　50%	■その他　50%
	基準等	課題の実施状況 レポート書類等の提出期限厳守	授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性

教科書	作業療法学専攻　臨床実習の手引き　第5版、臨床実習の手引き3年次版（別冊子）
参考図書	講義資料を随時配布する
履修要件等	「臨床実習指導Ⅱ」「臨床検査・測定実習」が履修済みであること。
オープンな教育リソース	

研究室	白岩：1号館5階　第13研究室 田崎：1号館4階　第3研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日　12：10～13：00 田崎：毎週火曜日　12：00～13：00

科目№	SCP08-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅰ（OT）	担当教員 E-Mail	白岩　圭悟・田崎　史江		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	臨床実習	必修	10　単位	後　期 （450h） 10週間

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、実習学生が主体的に対象者の状態像に関する評価に対し、臨床実習指導者の監督・指導を受けながら、治療の実践並びに治療の効果判定を模倣できているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療の一員として加わり、複数の症例に対し臨床評価から治療の実施の経験を通じて学ぶ診療参加型実習について説明し指導する。
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設にて臨床実習を実施する。臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し作業療法士としての基本的な役割を実践する。
学修目標 到達目標	1.　作業療法及び作業療法士の機能と役割について理解することができる 2.　対象者（児）の評価法を修得することができる 3.　治療計画を立案し、治療を実施することができる 4.　治療の結果を踏まえ、予後について考察することができる
対面授業の進め方	・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案と実施）の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野9週間の実習を実施する。さらに1週間は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション分野での実習を行う。 ・対象者（児）の評価を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し、作業療法士としての基本的な役割を実践・経験する。 ・治療結果を踏まえ予後予測について考察する。	評価法を予め修める。また、既存の症例報告書を基に評価・治療計画・治療実施の流れをレビューし、関連する文献や教科書を読んでおくこと	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	□定期試験　　%	■その他　　100　%
	基準等				①　CBT10% ②　実習前試験 10% ③　実習中間評価 30% ④　臨床総合実習Ⅰ評定表 20% ⑤　症例報告会 20% ⑥　その他 10%

教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き 第5版、臨床実習の手引き3年次版（別冊子）第5版
履修要件等	実習要件3）を満たしていること
オープンな教育リソース	

研究室	白岩：1号館5階　第13研究室 田崎：1号館4階　第3研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日　12：10～13：00 田崎：毎週火曜日　12：00～13：00

科目№	FCM08-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	形成外科学	担当教員 E-Mail	首藤　敦史		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	医学部附属病院および総合病院で臨床経験のある教員が、その経験を活かして講義する。
授業内容の要約	言語聴覚士の臨床業務においては「口腔顎顔面領域における先天的・後天的疾患」「外科的治療法」「外科的治療に伴う障害」といった形成外科学的な知識が求められる。これらは形成外科学・口腔外科学にまたがる領域であるが、本授業では口腔機能（咀嚼・嚥下・構音）を軸とした口腔外科学的な観点から理解する。 本授業は 3 年次カリキュラム・ポリシー「障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す」ために必要となる科目である。
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚士に求められる、口腔顎顔面領域の疾患に関する知識を習得する。 2. 言語聴覚士として、口腔顎顔面領域の外科的治療に関して留意すべき点を理解する。 3. 言語聴覚士国家試験に合格するための本分野の知識を習得する。
対面授業の進め方	PowerPoint によるスライドを中心に講義を行う。毎回、参考資料のプリントを配布する。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. 形成外科学総論	授業後、講義内容の復習をする。	
2. 組織移植		
3. 外傷、熱傷、潰瘍		
4. 口唇裂、顎裂、口蓋裂		
5. 頭蓋、顔面、耳介の先天異常		
6. 頭頸部外科手術、手術に伴う障害		
7. 瘢痕とケロイド		
8. 定期試験、総括及びフィードバック		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート　30 %	■定期試験　70 %	□その他　%
	基準等		講義内容の要点をレポートにまとめる。	講義内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書	平林 慎一（監修）	標準形成外科学　第 7 版	医学書院	2019
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1 号館 1 階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目№	FPS04-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	臨床心理学Ⅱ（ＳＴ）	担当教員 E-Mail	荒木　郁緒		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	心理学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	精神科病院や地域精神保健福祉での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、臨床心理の基本的な知識と手法についての考え方について実習を交えながら講義する。
授業内容の要約	臨床心理学の理論やアプローチの理解を通して、心理的観点からの対人理解を学ぶ。また対患者だけでなく、自身のストレスコーピングや多職種連携のコミュニケーションについても学ぶ。
学修目標 到達目標	1. “こころ”のあり方の概要を理解することができる 2. 医療従事者として臨床心理学の知識を生かすことができる 3. 人と人との関係の中で何が起こり得るかについて、考え検討することができる
対面授業の進め方	レジュメや資料プリント配布による講義形式 （グループワーク・心理アセスメントの実習・描画技法の体験を含む）
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信もしくは stream での動画配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. “リンショウシンリガク”とは？ （臨床心理の歴史、制度、資格）	復習（レポートにまとめる）	
2. “話を聴く”とはどういうことか？（傾聴、受容、共感）	復習（レポートにまとめる）	
3. 無意識の発見（精神分析理論の歴史的変遷）	復習（レポートにまとめる）	
4. 人と人との間で起こること（転移・逆転移）	復習（レポートにまとめる）	
5. 認知行動療法に学ぶ技法	復習（レポートにまとめる）	
6. ナラティヴセラピー等に学ぶ技法	復習（レポートにまとめる）	
7. “いま・ここ”に注意を向ける （メンタライジング、イメージ）	復習（レポートにまとめる）	
8. 目の前の人をどうやって見立てるのか？ （生涯発達の観点から）	復習（レポートにまとめる）	
9. “こころ”をどうやって見立てるのか？ （心理検査、投影法など）	復習（レポートにまとめる）	
10. 正常と異常の狭間について（歴史、文化、制度）	復習（レポートにまとめる）	
11. こころの病の分類とアプローチ （統合失調症、双極性障害など）	復習（レポートにまとめる）	
12. こころの病の分類とアプローチ （人格障害、発達障害など）	復習（レポートにまとめる）	
13. グループワーク（描画体験）	復習（レポートにまとめる）	
14. グループワーク（事例検討）	復習（レポートにまとめる）	
定期試験（期末レポート）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　0%	■レポート　30%	■定期試験　30%	■その他　40%
	基準等		各授業の振り返りを提出物（レポート）で評価する。	定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度や受講態度等で評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		レジュメや配布資料を用いて行う		
参考図書		必要に応じてその都度紹介		
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	１号館１階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目№	FPS05-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	心理測定法	担当教員 E-Mail	松尾　加代		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	心理学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	国家試験に必要な内容を中心に、心理測定法の基礎を学ぶ。手法や検査の種類だけではなく、それらの背後にある構成概念を学んでいく。
学修目標 到達目標	1. 心理測定の目的を理解し、検査の種類と内容を知る 2. 心理測定で得られたデータを適切に分析し、正しく解釈するための基礎を学ぶ
対面授業の進め方	演習を適宜含めながら、講義形式で行う。毎講義後に、感想や質問の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。
遠隔授業の進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の Teams を使用して講義を実施する。講義終了後、指定された課題を提出する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 心理測定とは　/　尺度：名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度	授業内容の復習	
2. 測定法：観察法、面接法、検査法、調査	〃	
3. 信頼性と妥当性	〃	
4. 標準化とサンプリング	〃	
5. 精神物理学的測定法：調整法、恒常法、極限法、ME 法	〃	
6. 心理尺度構成法：評定尺度法、順位法、一対比較法	〃	
7. 演習①：精神物理学的測定法	〃	
8. 演習②：心理尺度構成法	〃	
9. 誤差：系統誤差、偶然誤差	〃	
10. 知能テスト：WAIS	〃	
11. 人格テスト：質問紙法、投影法	〃	
12. 記述統計：代表値　/　推測統計①：パラメトリック検定	〃	
13. 推測統計②：ノンパラメトリック検定	〃	
14. 復習と総合演習（言語聴覚士国家試験）	〃	
定 期 試 験		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　30%	□レポート　　%	■定期試験　　70%	□その他　　%
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書				
履修要件等	医療統計学を復習しておくこと			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館4階　第4研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　16：20 ～ 17：50	

科目№	FSL03-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	音響学（含演習）	担当教員 E-Mail	馬屋原　邦博・和田　英嗣		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	ST の聴覚・構音・音声に関する仕事を行う上で必要となる音響学の基本的概念（音波の性質、音圧、周波数、スペクトル、dB の計算、共鳴、デジタル録音、スペクトログラムなど）を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 波長と周波数，dB の計算ができる 2. フォルマントおよび音声知覚の手がかりに関する説明ができる 3. デジタル音声処理に関する説明ができる
対面授業の進め方	なにか分からない点があれば、その場ですぐに質問をすること。 国試にも必須の内容なので、授業時間内に内容をきちんと理解すること。
遠隔授業の進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 音とは何か（教科書 p.203）、単位の接頭辞	復習：授業の範囲をまとめる	
2. 音波の性質と波長・周期・周波数・音速（教科書 p.203）	復習：授業の範囲をまとめる	
3. 単振動と純音、音圧レベルと音の大きさのレベル（教科書 p.204）	復習：授業の範囲をまとめる	
4. dB の計算（dBSPL⇄Pa）	復習：授業の範囲をまとめる	
5. 時間波形と周波数スペクトル(教科書 pp.204～205)	復習：授業の範囲をまとめる	
6. 音響管の共鳴(教科書 pp.205～206)	復習：授業の範囲をまとめる	
7. 音声生成の音響理論(教科書 pp.207～208)	復習：授業の範囲をまとめる	
8. デジタル信号処理(教科書 pp.208～209)	復習：授業の範囲をまとめる	
9. デジタル信号処理(教科書 pp.208～209)	復習：授業の範囲をまとめる	
10. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209～210)	復習：授業の範囲をまとめる	
11. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209～210)	復習：授業の範囲をまとめる	
12. 母音の音響特性と知覚(教科書 p. 210)	復習：授業の範囲をまとめる	
13. 子音の音響特性と知覚(教科書 pp.210～211)	復習：授業の範囲をまとめる	
14. 超分節的要素の音響特徴と知覚(教科書 p.212)	復習：授業の範囲をまとめる	
定 期 試 験		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	大森孝一　他	言語聴覚士テキスト　第3版	医歯薬出版	2018
参考図書	竹内京子･稲田朋晃	音響・音声学	メジカルビュー	2023
	吉田友敬	言語聴覚士の音響学入門　2訂版	海文堂出版	2020
	青木直史	ゼロからはじめる音響学	講談社	2014
	今泉敏	言語聴覚士のための音響学	医歯薬出版	2007

履修要件等	聴覚心理学・聴覚検査等の授業内容および指数計算の方法を復習しておくこと		
オープンな 教育リソース			
研究室	馬屋原：1 号館 5 階 第 19 研究室 和田：1 号館 5 階 第 1 共同研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12：10～13：00 和田：毎週火曜日 10：40～12：10

科目№	SGR01-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	研究法（ST）	担当教員 E-Mail	上田　有紀人　/　言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	卒業研究	必修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	各教員が、自身の実務経験に沿った内容を研究テーマとする学生を担当し、卒業研究を指導する。
授業内容の要約	臨床経験を積み上げる過程において、患者様に対して評価や訓練、また病変と症状との関係性など様々な疑問や問題に直面します。これは医学分野においても同様です。それら疑問や問題を解決していく過程において「研究法」は重要な位置付けとなります。本講義では、言語聴覚研究を進める上での、研究の特徴・研究の種類や方法・文献検索方法、研究データを取り扱う上での倫理的配慮に関して、実例なども呈示しながら講義を進めます。その後、卒業研究指導教員のもとで、研究テーマに沿って卒業研究を行います。
学修目標 到達目標	1.　言語聴覚臨床における研究の意義、目的について説明できる。 2.　研究の種類・実証方法を説明できる。 3.　研究テーマの設定・計画・成果を報告できる。
対面授業の進め方	前半６回は講義形式を主にディスカッションも交えながら進める。 後半２回は研究テーマに沿って各教員別に指導を受ける。
遠隔授業の進め方	各講義内容に沿った解説資料と課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 言語聴覚障害学における研究（EBM・EBPなど）	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
2. 研究のデザインの基礎	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
3. 研究における実証の方法、倫理的配慮	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
4. 研究計画の進め方（テーマの設定・立案など）	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
5. 研究成果の方法（抄録・学会発表、論文の書き方）	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
6. まとめ・研究テーマの決定・１～５までの総括	講義の内容を復習しノートにまとめる。	
7. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】①	実験、調査、文献検索などを行う。	
8. 卒業研究演習【指導教員別に指導のもとで計画に沿って研究を進める】②	実験、調査、文献検索などを行う。	

成績評価方法	項目	□課題　70%	□レポート　%	□定期試験	□その他　30%
	基準等	1～6は、科目担当教員が評価する。			7～8は、卒業研究の指導教員が評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考図書	藤田郁代　監修	標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学	医学書院	2020
	福原俊一	臨床研究の道標　第２版（上巻）	iHope International	2017
	福原俊一	臨床研究の道標　第２版（下巻）	iHope International	2017

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	１号館５階　第16研究室	オフィスアワー	毎週木曜日　12：10～13：00

科目№	SDS03-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	言語聴覚障害診断学	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子　・　言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床経験のある教員が臨床現場の現況に即した対応の仕方を解説する。また、OSCE では、病院勤務の言語聴覚士からの評価と指導を受ける。
授業内容の要約	臨床評価実習に向けての準備のため、これまで学習してきた専門分野について復習を行う。また、スクリーニング検査を作成し、実施できるようになる。
学修目標 到達目標	1. 臨床評価実習までに社会人・医療従事者としてのマナーや態度を修得する 2. 専門用語を使って簡潔に記録が書ける 3. 基礎的な知識を理解し説明できる 4. 患者様に対する話し方や態度を修得する
対面授業の進め方	授業は、講義形式と演習形式がある。学生同士で練習することがあるので、欠席する場合は必ず連絡を事前に入れること。また、演習を行うときは、身体・口腔は清潔に保ち、動きやすい服装、タオルを用意されたい。
遠隔授業の進め方	原則、対面授業を行う。臨床評価実習ならびに OSCE に向けての評価の練習を行うため、規定の時間割とは異なった自主的練習を行うこと。また、臨床実習に向けての記録やレポートの書き方、実習生としての礼節等についても平素から気を付けて行動されたい。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. ガイダンス	
2. 感染対策—院内感染、清潔・不潔	手洗いの仕方　予習
3. 移乗	車椅子の仕組み、操作方法　予習
4. 血圧測定	バイタルチェックの練習　予習
5. アサーション・トレーニング	
6. 医療面談	
7. スクリーニング検査	失語症関連のスクリーニング検査の練習
8. スクリーニング検査	改訂水飲み検査の練習
9. OSCE①	SLTA の練習
10. OSCE①	小児のスクリーニング検査の練習
11. 記録の書き方	運動性構音障害のスクリーング検査
12. 記録の書き方	神経心理学諸検査の練習
13. 臨床実習の管理・運営（リスク管理、インフォームドコンセント、ハラスメント防止）	神経心理学諸検査の練習
14. OSCE②	神経心理学諸検査の練習
15. OSCE②	
16. OSCE のフィードバック	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート　10%	□定期試験　%	■その他　90%
	基準等		OSCE後に自己フィードバックしたレポートを評価する。		OSCE(客観的臨床能力試験)を2回実施する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	大阪河﨑リハビリテーション大学	実習の手引き　言語聴覚学専攻		2017
	平野哲雄他　編著	「言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第３版」	協同医書出版社	2014
参考図書				
履修要件等	臨床基礎実習の単位取得をしておくこと。			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日　12：10～13：00	

科目№	SHB02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ	担当教員 E-Mail	塚本　能三		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学	必　修	2　単位	前　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。
授業内容の要約	失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断の理論・方法を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 失語症患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 病巣と失語症の関連を解剖生理学的に理解することができる 3. 失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断をすることができる
対面授業の進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osce を実施する。授業外での検査練習は必須である。
遠隔授業の進め方	Teams、ストリーム、課題配信等

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
失語症とは	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
2. 失語症の症状について	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
3. 失語症の周辺症状について	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
4. 自由会話からの失語症状の読み取り	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
5. 失語症の類型①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
6. 失語症の類型②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
7. 原発性進行性失語	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
8. 失語症とロゴジェンモデル	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
9. 失語症と脳解剖	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
10. 失語症と画像診断	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
11. 失語症と随伴症状（合併する高次脳機能障害）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
12. 失語症と保続	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
13. 失語症の評価　（スクリーニング検査）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	

14. 失語症の評価　(SLTA「聴く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
15. 失語症の評価　(SLTA「話す」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
16. 失語症の評価　(SLTA「読む」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
17. 失語症の評価　(SLTA「書く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
18. 失語症の評価（SLTA プロフィールの読み取り①)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
19. 失語症の評価（SLTA プロフィールの読み取り②)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
20. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
21. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
22. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
23. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
24. 失語症掘り下げ検査①	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
25. 失語症掘り下げ検査②	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。
26. 日常コミュニケーション能力改善への方略	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
27. 失語症のデイリーの書き方①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
28. 失語症のデイリーの書き方②	デイリーを自宅で完成させて提出する。
29. 失語症のデイリーの書き方③	デイリーを自宅で完成させて提出する。
定 期 試 験	
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■ osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示するデイリー・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講態度

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田郁代　監修	標準言語聴覚障害学　失語症学　第３版	医学書院	2021
参考図書	種村純　編著	失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション	新興医学出版社	2013
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	１号館１階　言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日　14：40～16：10	

科目№	SHB03-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅲ	担当教員 E-Mail	塚本　能三・芦塚　あおい		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学	必　修	2　単位	後　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症の言語治療、および高次脳機能障害に対する具体的検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。
授業内容の要約	失語・高次脳機能障害学Ⅰ・Ⅱを基に、評価・診断・リハビリテーションの理論・方法を学ぶ
学修目標 到達目標	1. スクリーニング検査を実施し、評価することができる 2. 失語症検査を実施し、評価することができる 3. 高次脳機能検査を実施し、評価することができる
対面授業の進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osce を実施する。授業外での検査練習は必須である。
遠隔授業の進め方	Teams、ストリーム、課題配信等

授業計画	授業時間外に必要な学修　60分以上
1. 失語症の評価演習（スクリーニング検査）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
2. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り①）	予習：失語症の類型、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
3. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り②）	予習：失語症の類型、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
4. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り③）	予習：失語症の類型、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
5. 失語症の評価演習（実用コミュニケーション能力検査）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
6. 失語症の評価演習（その他掘り下げ検査）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
7. 失語症の治療理論	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
8. 失語症の訓練立案、短期目標と長期目標	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
9. 失語症の言語治療（治療理論に基づく訓練法）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
10. 失語症の言語治療（ＰＡＣＥ）	予習：osce に備える。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
11. 失語症の言語治療（標準失語症検査 osce）	予習： osce に備える。 復習： フィードバックされたことを把握する。
12. 失語症の言語治療（標準失語症検査 osce）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：フィードバックされたことを把握する。
13. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
14. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること

15.　高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視①）について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
16.　高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視②）について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
17.　高次脳機能障害の評価と訓練（遂行機能障害）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
18.　高次脳機能障害の評価と訓練（その他前頭葉症状について）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
19.　高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
20.　高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
21.　高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
22.　高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害②）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
23.　高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害③）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
24.　高次脳機能障害の評価と訓練（失認①）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
25.　高次脳機能障害の評価と訓練（失認②）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
26.　高次脳機能障害の評価と訓練（地誌的見当識障害と後方病巣により生じる障害）	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
27.　認知症の評価とアプローチ①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
28.　認知症の評価とアプローチ②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
29.　認知症の評価とアプローチ③	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること
定期試験（期末レポート）	
30.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト 15%	■osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示する課題・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講・演習取り組み態度

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	種村純（編）	失語症Q&A検査結果のみかたとリハビリテーション	新興医学出版社	2013
	藤田郁代（編）	高次脳機能障害学第3版	医学書院	2021
参考図書	伊藤元信（編）	言語治療ハンドブック	医歯薬出版	2017
履修要件等				
オープンな教育リソース				

研究室	塚本：1号館1階　言語聴覚学専攻長室 芦塚：1号館4階　第6研究室	オフィスアワー	塚本：毎週水曜日　14：40～16：10 芦塚：毎週火曜日　12：10～13：00

科目№	SLD03-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	言語発達障害治療学Ⅰ	担当教員 E-Mail	川畑　武義		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	言語発達障害支援について臨床経験のある教員が、現在行われている方略、及び開発されつつある支援、また課題について具体的内容を紹介する。
授業内容の要約	小児の言語発達障害の中でも主に先天的な疾患による脳機能障害（脳性麻痺）に起因するものについて講義する。また、乳幼児期の発達支援の重要性を踏まえ、言語発達障害支援を具体的に示す。
学修目標 到達目標	1. 言語発達障害支援の基礎知識を得る。 2. 脳性麻痺/重症心身障害の言語の特徴やコミュニケーションの問題について学習し、現在の支援、将来に向けての方向性を考える。
対面授業の進め方	講義資料や動画を用いて言語発達障害児のST場面を提示し、これまで学修した知識を元にディスカッション等を行いながら授業を進める。
遠隔授業の進め方	各講義の内容に沿った解説資料と課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 脳性麻痺/重症心身障害児の概要①	講義内容を復習しノートにまとめる	
2. 脳性麻痺/重症心身障害児の概要②	講義内容を復習しノートにまとめる	
3. 障害が重い子どものコミュニケーション支援	講義内容を復習しノートにまとめる	
4. AAC総論①	講義内容を復習しノートにまとめる	
5. AAC総論②	講義内容を復習しノートにまとめる	
6. ローテクノロジーを用いたコミュニケーション支援	講義内容を復習しノートにまとめる	
7. ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション支援	講義内容を復習しノートにまとめる	
8. ICTを活用した学習支援の考え方	講義内容を復習しノートにまとめる	
9. 小児摂食嚥下障害①	講義内容を復習しノートにまとめる	
10. 小児摂食嚥下障害②	講義内容を復習しノートにまとめる	
11. 発達性協調運動障害の概要①運動機能の評価	講義内容を復習しノートにまとめる	
12. 発達性協調運動障害の概要②支援（鉛筆・お箸の持ち方）	講義内容を復習しノートにまとめる	
13. 肢体不自由児、重症心身障害児の実際の支援	講義内容を復習しノートにまとめる	
14. 国家試験の過去問題から脳性麻痺児に必要な支援の考え方を知る	講義内容を復習しノートにまとめる	
定期試験（期末レポート）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	講義内容を復習する	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　80%	□その他　20%
	基準等			定期試験を実施し授業の内容について理解度を評価する。試験範囲については講義内で指示する。	授業態度も評価対象とする。（理由のない欠席-4点、遅刻-2点、居眠り-1点）

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	無し			
参考図書				
履修要件等	言語発達障害学Ⅰが履修済みであることが望ましい。			

オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目№	SLD04-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	言語発達障害治療学Ⅱ（含演習）	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害	必　修	2　単位	前　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。
授業内容の要約	「言語発達障害学Ⅱ」に続き、知的能力障害、自閉スペクトラム症および周辺領域の発達障害（特異的言語発達障害、ADHD など）の発達障害の検査、評価、支援法について解説する。
学修目標 到達目標	1. 発達障害の実際を理解できる 2. 発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 診断と評価をもとに具体的な支援策を考察することができる
対面授業の進め方	子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。
遠隔授業の進め方	原則、対面授業を行う。子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断	復習ならびに検査の練習を行うこと
2. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断	復習ならびに検査の練習を行うこと
3. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の概論・解説	復習ならびに検査の練習を行うこと
4. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
5. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
6. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
7. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査による診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
8. 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査による診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
9. 心理・教育的診断と評価の方法　KABCⅡの概論・解説	復習ならびに検査の練習を行うこと
10. 心理・教育的診断と評価の方法　KABCⅡの概論・解説	復習ならびに検査の練習を行うこと
11. 心理・教育的診断と評価の方法　KABCⅡの解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
12. 心理・教育的診断と評価の方法　KABCⅡの解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
13. KABCⅡによる診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
14. KABCⅡによる診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
15. 心理・教育的診断と評価の方法　新版 K 式発達検査の概論･解説	復習ならびに検査の練習を行うこと
16. 心理・教育的診断と評価の方法　新版 K 式発達検査の概論･解説	復習ならびに検査の練習を行うこと
17. 心理・教育的診断と評価の方法　新版 K 式発達検査の解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
18. 心理・教育的診断と評価の方法　新版 K 式発達検査の解説・演習	復習ならびに検査の練習を行うこと
19. 新版 K 式発達検査による診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
20. 新版 K 式発達検査による診断と支援方法	復習ならびに検査の練習を行うこと
21. 心理・教育的検査法の概説（CARS、DN-CAS、田中ビネー、ITPA 等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
22. 心理・教育的検査法の概説（CARS、DN-CAS、田中ビネー、ITPA 等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
23. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法（INREAL 等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
24. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法（INREAL 等）	復習ならびに検査の練習を行うこと

25. 自閉症児の支援方法（TEACCH、SCERTS モデル等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
26. 自閉症児の支援方法（TEACCH、SCERTS モデル等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
27. 発達障害児の言語聴覚訓練（ソーシャルスキルトレーニング等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
28. 発達障害児の言語聴覚訓練（ソーシャルスキルトレーニング等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
29. 保護者への指導（ペアレントトレーニング等）	復習ならびに検査の練習を行うこと
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	■定期試験　90%	■その他　　10%
	基準等			授業・演習の理解を評価する。	授業・演習の参加態度、を評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学　第３版」	医学書院	2021
参考図書	小野次朗他編著	「よくわかる発達障害」	ミネルヴァ書房	2010
履修要件等	「言語発達障害学Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階　第 17 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日　12：10～13：00	

科目№	SOS01-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	音声障害学（含演習）	担当教員 E-Mail	上田　有紀人		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院での豊富な臨床経験を生かして、音声障害の基本的な知識と病態や訓練について講義する。また講義では実際の患者さんの音声も確認しながら、学習していく。
授業内容の要約	発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムを理解する。音声障害をもたらす疾患、発生機序、病態を学び、音声障害に関する検査、評価、訓練法、薬物治療、手術的アプローチについて学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムが理解できる 2. 音声障害の原因・発生機序・病態が理解できる 3. 音声障害の評価・訓練ができる 4. 無喉頭者の代用音声の理解と訓練法ができる
対面授業の進め方	座学と実技を行う。実習や臨床場面を想定して、種々の障害像について理解し、評価・訓練の演習を行う。特に様々な音声障害のリハビリテーションの実技は積極的な態度が望まれる。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 声の特性・物理的特徴	声の4つの特性と喉頭の調節について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
2. 発声発語器官の解剖・生理	声に関わる器官の解剖や発声の生理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
3. 音声治療における言語聴覚士の役割	耳鼻咽喉科医師との連携について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
4. 音声障害の原因疾患	器質性や神経学的、機能性の音声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
5. 検査・評価（喉頭観察機器）	音声障害の診断に用いる喉頭の観察機器について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
6. 検査・評価（聴覚心理学的検査）	GRBAS 尺度について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
7. 検査・評価（発声機能検査・音響分析）	発声機能検査や音響分析について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
8. 音声治療の原理	運動学習理論と神経可逆性の原理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
9. 音声訓練の実際	間接訓練と直接訓練について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
10. 声の衛生指導	声の衛生指導について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
11. 心因性発声障害・痙攣性発声障害の理解	心因性・痙攣性発声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。
12. 音声障害の薬物治療・音声障害の手術的アプローチ	音声障害の薬物療法や音声外科について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。

13. 気管切開と気管カニューレ	気管切開とカニューレについて事前に調べておく。 復習のために授業後にノートにまとめる。
14. 喉頭摘出と無喉頭音声の理解と実際	喉頭摘出と無喉頭音声の種類について事前に調べておく。 復習のために授業後にノートにまとめる。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　10%	■授業態度　20%	■定期試験　70%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	出席の有無や授業中の積極的な参加、聴講姿勢を評価する。	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	

	著書	タイトル	出版社	発行年
教科書	苅安誠・城本修　編著	言語聴覚療法シリーズ 14　改訂　音声障害	建帛社	2012
参考図書	廣瀬肇　監修	ST のための音声障害診療マニュアル	インテルナ出版	2008
	日本音声言語医学会	新編　声の検査法	医歯薬出版	2009

履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階　第 16 研究室	オフィスアワー	毎週木曜日　12：10～13：00

科目№	SOS02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	成人系発話障害学Ⅰ	担当教員 E-Mail	和田　英嗣		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必修	2　単位	前　期（46h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして、発話の生成メカニズムや運動障害性構音障害の症状、それらの評価・訓練について講義する。
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。発声発語器官の解剖・生理、運動障害性構音障害（ディサースリア）をきたす疾患・発生機序・病態を理解し、種々の検査・評価・訓練法の習得を目指す。また補綴的手段、手術的アプローチ、拡大・代替コミュニケーションについて理解する。
学修目標 到達目標	1. 発声発語器官の解剖・生理、構音のメカニズムが理解できる 2. 運動障害性構音障害の原因疾患・病態・タイプ分類が理解できる 3. 構音検査の概要理解・実施、評価の分析（タイプ分類）ができる。 4. 訓練プログラムの立案と実施ができる
対面授業の進め方	座学と実技を行う。発声発語のメカニズムを理解した上で、実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのために小テストを実施し、復習や試験対策に活用してもらう。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 音声言語（話しことば）の生成について（p26～43） 発声発語器官の解剖・生理について	音声言語、発声発語器官の解剖・生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
2. 発話機構（呼吸・発声・構音）について（p44～57）	発話機構（呼吸・発声・構音）について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
3. ことばの音の性質・神経機構について（p58～83）	ことばの音の性質・神経機構について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
4. 構音障害の概要（声・構音・プロソディの障害）（p101～105）	構音障害の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
5. 痙性・弛緩性ディサースリアについて（p86～92、106～109）	痙性・弛緩性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
6. 失調性・運動低下性ディサースリアについて（p93～95、110～113）	運動失調性・運動低下性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
7. 運動過多性・混合性ディサースリアについて（p95～100、113～114）	運動過多性・混合性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
8. ディサースリアにおけるタイプ分類のまとめ（p221～224）	ディサースリアにおけるタイプ分類について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
9. 検査・診断・評価の流れ、問診および情報収集について スクリーニング検査について（p122～127、142～145）	検査・診断・評価の流れ、問診及び情報収集、スクリーニング検査について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
10. ことばの音の評価、発声発語器官の評価について（p146～175、188～201、216～221）	ことばの音の評価、発声発語器官の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
11. 標準ディサースリア検査の概要	標準ディサースリア検査の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。

12. 標準ディサースリア検査の演習	標準ディサースリア検査のマニュアルを参考に手順を練習する。
13. 標準失語症検査補助テストの概要	標準失語症検査補助テストの概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
14. 標準失語症検査補助テストの演習	標準失語症検査補助テストのマニュアルを参考に手順を練習する。
15. 機能訓練、タイプ別訓練法について（p264～273）	機能訓練、タイプ別訓練法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
16. 粗大運動、構音動作、プロソディについて（p274～314	粗大運動、構音動作、プロソディについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
17. 症例の観察ポイントについて	症例の観察ポイントについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
18. 症例提示（動画供覧）、実習日誌の作成	症例について動画を視聴して、授業後に実習日誌を作成する。
19. 国試対策	国試の過去問について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
20. まとめ、試験範囲のポイントについて	まとめ、試験範囲のポイントについて授業後にノートにまとめる。
21. 実習日誌のフィードバック①	実習日誌について授業後にノートにまとめる。
22. 実習日誌のフィードバック②	実習日誌について授業後にノートにまとめる。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	■ 課題 20%	■ レポート 0%	■ 定期試験 70%	■ その他 10%
	基準等	授業内に課題を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	廣瀬肇　他	言語聴覚士のための運動障害性構音障害学	医歯薬出版	2001
参考図書	益田慎　監修	Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学[Web 動画付]	メジカルビュー社	2022
	西尾正輝	ディサースリア臨床標準テキスト　第２版	医歯薬出版	2022

履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい		
オープンな教育リソース			
研究室	１号館５階第１共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日　10：40 ～ 12：10

科目№	SOS03-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	摂食嚥下障害学（含演習）	担当教員 E-Mail	上田　有紀人・和田　英嗣		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必修	2　単位	後　期（46h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設、訪問での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、摂食嚥下の基本的な知識や症状、それらの評価や訓練、対応方法について講義する。
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。摂食嚥下に関わる諸器官と摂食・嚥下のメカニズム、及び摂食嚥下障害の原因疾患、種々の病態について理解し、摂食嚥下障害の評価・訓練、食事指導、摂食嚥下機能に影響を及ぼす要因（高次脳機能、薬剤、環境など）、気管吸引、他職種との連携について学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 摂食嚥下に関わる器官の解剖・生理・年齢的変化について理解できる 2. 摂食嚥下障害の原因、病態について理解できる 3. 種々の摂食嚥下機能検査について特性、適応、技法、解析方法を理解し、評価できる 4. 摂食嚥下障害の訓練や代償法について理解し、実施できる
対面授業の進め方	座学と実技を交えながら行う。また、グループ討論やプレゼンテーションを実施、様々なテーマについて考察し、実習や臨床場面での知識の活用に役立てる。実技では、ストップウォッチやペンライト・聴診器などを使用する。知識と技術の習得のため、積極的な授業態度が望まれる。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 摂食嚥下に関わる器官の解剖	摂食嚥下器官の解剖について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
2. 摂食嚥下・呼吸機能の生理	摂食嚥下・呼吸機能の生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
3. 摂食嚥下の神経機構	摂食嚥下の神経機構について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
4. 摂食嚥下の年齢的変化	摂食嚥下の年齢的変化について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
5. 摂食嚥下の症状 神経疾患の摂食嚥下障害	摂食嚥下の症状、神経疾患の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
6. 器質性の摂食嚥下障害 その他の摂食嚥下障害	器質性の摂食嚥下障害、その他の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
7. 摂食嚥下障害の合併症 言語聴覚士が単独で行える検査	摂食嚥下障害の合併症について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
8. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技練習	言語聴覚士が単独で行える検について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
9. 嚥下造影検査（VF）の概要と読影	嚥下造影検査について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
10. 嚥下内視鏡検査（VE）の概要と読影 その他の検査法	嚥下内視鏡検査、その他の検査法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。

11. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験①	諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。
12. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験②	諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。
13. 間接的嚥下訓練①	間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
14. 間接的嚥下訓練②	間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
15. 直接的嚥下訓練①	直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
16. 直接的嚥下訓練②	直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
17. 嚥下障害の手術的治療 代替栄養法	嚥下障害の手術的治療、代替栄養法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
18. 気管切開とその管理 国家試験対策	気管切開とその管理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
19. 喀痰吸引の概要と実施方法	たん吸引の概要と実施方法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
20. 喀痰吸引の実技	たん吸引の実技について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
21. まとめ、試験範囲のポイントについて①	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。
22. まとめ、試験範囲のポイントについて②	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	レポートを授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	倉智雅子	「言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学」	医歯薬出版	2013
参考図書	聖隷嚥下チーム	「嚥下障害ポケットマニュアル　第４版」	医歯薬出版	2018
	才藤栄一	「摂食嚥下リハビリテーション　第３版」	医歯薬出版	2016

履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱ・口腔外科学・形成外科学・臨床神経学を履修していることが望ましい。
オープンな教育リソース	【動画】改訂水飲みテスト 【URL】https://youtu.be/XuxMEK4SkaU 【活用方法】スクリーニングテストの復習、臨床実習や客観的能力試験（OSCE）の事前準備 【動画】反復唾液嚥下テスト 【URL】https://youtu.be/yaWd1lPvHT8 【活用方法】スクリーニングテストの復習、臨床実習や客観的能力試験（OSCE）の事前準備

研究室	和田：１号館５階　第１共同研究室 上田：１号館５階　第16研究室	オフィスアワー	和田：毎週火曜日　10：40～12：10 上田：毎週木曜日　12：10～13：00

科目№	SOS04-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	小児系発話障害学Ⅰ	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	構音障害の臨床をクリニックや幼稚園・小学校等で行っている。実際に行っている臨床の評価と指導について解説を行う。
授業内容の要約	「音声学」「口腔外科学」等の専門基礎分野で学んだ発声発語器官の機能、異常構音、構音検査、構音表記、構音障害の診断、指導法について学習する。また、検査、表記、指導は具体的に実践できるまで学習する。
学修目標 到達目標	1. 構音検査を正しく実施できる 2. IPA を使って誤り構音が表記できる 3. 構音評価ができる 4. 構音指導ができる 5. 誤り構音が分析できる
対面授業の進め方	授業は、座学と演習をまじえて進める。 演習時には、鼻息鏡、ペンライト、手鏡を持参すること また、学生同士で練習するので、授業前に口腔内の清拭をしておくこと
遠隔授業の進め方	遠隔授業を要する場合は、Office365 Teams にて授業を行う。リモートでも、受講者各自で鼻息鏡、ペンライト、手鏡を用意し、自己で演習を行うのが望ましい。 また、自分の口腔を見ながら演習するが、家族の協力が得られると望ましい。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 日本語構音の音声学　音声表記法	IPA の復習
2. 日本語構音の音声学　音声表記法	IPA の復習
3. 発声発語器官の形態・機能とその異常	頭頸部の機能解剖の復習
4. 機能性構音障害の検査	「ことばのテストえほん」の検査練習
5. 機能性構音障害の検査	「構音検査」の検査練習
6. 機能性構音障害の検査	諸検査が実施できるように練習する
7. 機能性構音障害の診断	構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する
8. 機能性構音障害の診断	構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する
9. 口腔機能の訓練法	訓練の実施練習
10. 口腔機能の訓練法	訓練の実施練習
11. 小児の構音障害児の指導	事例についての学習
12. 小児の構音障害児の指導	事例について学習
13. 小児の構音障害児の指導	事例について学習
14. 教材作成法	時間内にできなかったものを完成させる
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　90　%	■その他　10　%
	基準等			授業内容についての理解度を評価する。	授業への参加、理解を評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	本間慎治編著	言語聴覚療法シリーズ7　改訂　機能性構音障害	建帛社	2007
参考図書				

履修要件等	「音声学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。日本語構音表記を IPA でできる。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 17 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10〜13：00

科目№	SOS05-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	成人系発話障害学Ⅱ	担当教員 E-Mail	上田　有紀人・和田　英嗣		
基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必修	1　単位	後　期（16h）
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして頭頸部がんの概要や器質性構音障害の特徴、それらの評価・訓練について講義する。				
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。器質性構音障害の中でも成人の口腔・中咽頭がんの内容を中心に行う。頭頸部がんの患者に対して医師は当然だが歯科との連携も必要不可欠となってくるため、疾患と歯学的・補綴的治療に関する基礎的な知識と、ST として特化した知識・技術の両方を習得できるよう、演習を含めて講義する。				
学修目標 到達目標	1. 頭頸部がんの種類や治療内容が理解できる。 2. 器質性構音障害の病態・特徴が理解できる。 3. 検査・評価・訓練の理解・技法ができる。				
対面授業の進め方	座学と実技を行う。実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのためにプリントを実施し、復習や試験勉強に活用してもらう。				
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。				

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 器質性構音障害に関わる解剖と生理	器質性構音障害に関わる解剖と生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
2. 器質性構音障害の特徴	器質性構音障害の特徴について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
3. 器質性構音障害の評価	器質性構音障害の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
4. 器質性構音障害の治療と訓練	器質性構音障害の治療と訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
5. 症例検討①	器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。
6. 症例検討②	器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。
7. まとめ、試験範囲のポイントについて	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　10%	■レポート　10%	■定期試験　70%	■その他　10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	道 健一	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学－器質性構音障害 第２版	医歯薬出版	2016
参考図書	溝尻源太郎 熊倉勇美	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション ＊構音障害、摂食・嚥下障害＊	医歯薬出版	2000
履修要件等	「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				

研究室	和田：１号館５階　第１共同研究室 上田：１号館５階　第16研究室	オフィスアワー	和田：毎週火曜日　10：40～12：10 上田：毎週木曜日　12：10～13：00

科目№	SOS06-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	小児系発話障害学Ⅱ	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	口唇口蓋裂に伴う構音障害の指導を行ってきた。その経験に基づき、本科目の授業を解説していく。
授業内容の要約	「小児系発話障害学Ⅰ」に続いて本科目を受講する。器質性構音障害の中でも、小児の口唇裂・口蓋裂を伴った言語障害について解説するため、「口腔外科学」「形成外科学」「臨床歯科学」を受講することが望ましい。
学修目標 到達目標	1. チームアプローチのための基礎的な知識を習得することができる 2. 器質的構音障害の言語評価ができる 3. 器質的構音障害の言語臨床が行える
対面授業の進め方	座学と演習をまじえた講義を行う。また、小テストを毎回実施する。 専門基礎分野の関係科目の知識と統合しながら受講されたい。
遠隔授業の進め方	モニターを見ながら、実際に声を出したり、口腔を動かすなどの演習を一人でも行ってほしい。 また、「歯科学」、「形成外科学」等の専門基礎分野の復習をしておくのが望ましい。 登校した際に頭頚部模型を見て立体的な理解を促しておくことが望ましい。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 口蓋裂治療におけるチームアプローチ　2pp		
2. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識　18-21pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
3. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識　18-21pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
4. 口唇口蓋裂の発生機序　3-11pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
5. 言語発達（構音・声）、構音障害の分類 23-35pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
6. 構音障害の分類、構音障害の内容 23-35pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
7. 言語臨床における検査・評価　36-48pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
8. 言語臨床における検査・評価　36-48pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
9. 外科治療・補啜治療・言語治療　50-63pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
10. 外科治療・補啜治療・言語治療　50-63pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
11. 口唇裂・口蓋裂を伴う疾患　69-71pp	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
12. 訓練の方法	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
13. 訓練の方法	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
14. 過去の国家試験を解く	前回の講義の復習（小テストを実施する）	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート　　%	■定期試験　90%	□その他　　%
	基準等	前回の授業内容の復習するための小テストを毎授業で実施する。		国家試験レベルの選択問題および記述式問題。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	斉藤裕恵ほか	「言語聴覚療法シリーズ８　器質性構音障害」	建帛社	2003
参考図書	夏目長門編	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科学・口腔外科学　第２版」	医学書院	2016

履修要件等	「小児系発話障害学Ⅰ」「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階　第 17 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日　12:10～13:00

科目№	SOS07-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	流暢性障害学	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子　・　久保田　功		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	吃音児の臨床経験がある教員が、症例の紹介をしながら非流暢性障害について解説する。
授業内容の要約	吃音のメカニズムを理解し、検査、評価、治療法について知識と技術を学ぶ。 また、吃音の疑似体験と事例を通じて、吃音者が必要とする支援の在り方を考える。
学修目標 到達目標	1. 吃音のメカニズムが説明できる。 2. 吃音の検査、評価ができる。 3. 治療法・支援法の立案ができる。 4. 吃音を包括的に理解し、適切な支援の在り方を立案できる
対面授業の進め方	前半は基礎的な学習（座学）と吃音の疑似体験（実験）を行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。
遠隔授業の進め方	前半は基礎的な学習（座学）と吃音の疑似体験（実験）を行う。実験は、各自でPCを用いて行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 吃音とは—定義、特徴、吃音の発生と原因論、分類、進展	過去の国家試験問題を解いて復習する	
2. 吃音の臨床の流れ—検査、評価、情報収集、診断	過去の国家試験問題を解いて復習する	
3. DAFによる吃音の疑似体験（演習）、訓練・治療法	DAFの実験データを分析・考察する	
4. 吃音臨床の実際：プロローグ		
5. 吃音臨床の実際：学童期・思春期の吃音	事例の評価・分析・訓練ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの立案	
6. 吃音臨床の実際：青年期・成人期の吃音	事例の評価・分析・訓練ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの立案	
7. 吃音臨床のワーク（演習）、吃音臨床を考える（ディスカッション）	事例の評価・分析・訓練ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの立案	
定期試験（期末レポート）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　10%	□レポート　%	■定期試験　90%	□その他　%
	基準等	演習のレポートを評価する		授業内容についての理解度を評価する	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	小林宏明･川合紀宗編著	「シリーズきこえとことばの発達と支援 特別支教育における 吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」	学苑社	2013
参考図書	松本治雄･後上鉄夫編著	「言語障害　事例による用語解説 第2版」	ナカニシヤ出版	2000
	都築澄夫　編著	「言語聴覚療法シリーズ13　改訂　吃音」	建帛社	2008

履修要件等	「言語発達学」「臨床心理学」が履修済みであることが望ましい。
オープンな教育リソース	
研究室	1号館5階 第17研究室　　オフィスアワー　毎週火曜日 12:10～13:00

科目№	SHD05-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	補聴器・人工内耳（含演習）	担当教員 E-Mail	馬屋原　邦博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚補償機器および福祉用具について授業を行う。
授業内容の要約	補聴器の種類や原理、補聴器特性測定装置の使い方、フィッティング方法、人工内耳等について理解を深める。
学修目標 到達目標	1. 補聴器のフィッティング方法について理解し、フィッティングができる 2. 補聴装用効果や補聴器特性の測定ができる 3. 人工内耳の原理や調整について理解できる
対面授業の進め方	講義と実際に補聴器を扱いながら、補聴器の理解を深め、調整や測定を行う。
遠隔授業の進め方	office365 teams を利用して、講義を行う。補聴器の調整や測定法については動画を利用する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 補聴器の構造・機能・種類と特徴（教科書 pp.130～134）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
2. 補聴器の調整機能（教科書 pp.134～137）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
3. 補聴器特性の測定法①（教科書 pp.138～140）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
4. 補聴器特性の測定法②（教科書 pp.140～143）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
5. 補聴器の付属品による調整（教科書 pp.137～138）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
6. デジタル補聴器の機能（教科書 pp.144～145）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
7. 補聴器のフィッティング演習①（教科書 pp.145～153）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
8. 補聴器のフィッティング演習②（教科書 pp. 145～153）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
9. 補聴器の適合評価（教科書 pp.153～154）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
10. 人工内耳の基礎原理（教科書 pp.167～170）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
11. 人工内耳のマッピング（教科書 pp.171～184）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
12. 人工内耳のマッピング（教科書 pp.186～197）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
13. その他の人工聴覚器（教科書 pp.162～166）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
14. 補聴援助システム（教科書 pp.197～203）	復習：授業範囲の内容をまとめる	
定 期 試 験		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	城間・鈴木・小渕（編）	標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版	医学書院	2021
参考図書	小寺一興	補聴器のフィッティングと適用の考え方	診断と治療社	2017
	新田清一・鈴木大介	ゼロから始める補聴器診療	中外医学社	2016
	関谷健一（監修・著）	よくわかる補聴器選び　2024年版	八重洲出版	2023

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：10～13：00

科目№	SHD06-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	聴覚障害治療学Ⅰ（含演習）	担当教員 E-Mail	廣瀬　宜礼		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害	必　修	1　単位	後　期 (30h)

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	聴覚障害児へ（リ）ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく（リ）ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の（リ）ハビリテーション計画を立案・実施（演習）できる 3. 指導教材や器具等を作成できる
対面授業の進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。
遠隔授業の進め方	遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業を LIVE 配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 聴覚障害児の聞こえと発達の確認と復習	復習を30分	
2. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション　1	復習を30分	
3. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション　2	復習を30分	
4. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション　3	復習を30分	
5. 聴覚障害児の指導と支援　1	復習を30分	
6. 聴覚障害児の指導と支援　2	復習を30分	
7. 保護者支援（障害の受容）・母親法	復習を30分	
8. 訓練課題　1	復習を30分	
9. 訓練課題　2	復習を30分	
10. 発音指導と聴能指導	復習を30分	
11. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導（演習）1	復習を30分	
12. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導（演習）2	復習を30分	
13. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導（演習）3	復習を30分	
14. 臨床の記録、評価	復習を30分	
15. 総括及びフィードバック（国家試験のポイントを見据える）		

成績評価方法	項目	□課題　20%	□レポート　80%	□定期試験　%	□その他　%
	基準等	授業の内容についての理解度を評価する	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版	医学書院	2021
参考図書	立石　恒雄	言語聴覚士のための子どもの聴覚障害訓練ガイダンス	医学書院	2004
履修要件等				

オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目№	SHD07-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	聴覚障害治療学Ⅱ（含演習）	担当教員 E-Mail	馬屋原　邦博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の支援方法について授業を行う。
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、それぞれの生活の場での困難状況に即した対策を検討し、それぞれのゴールとしての社会参加にあわせた支援方法を考える。
学修目標 到達目標	1. 成人聴覚障害者のリハビリテーションと障害対策について理解できる 2. 高齢難聴者の支援方法について理解できる
対面授業の進め方	講義と実技学習を交えながら進める。
遠隔授業の進め方	office365 teams を利用して、講義と実技学習を交えながら進める。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 成人聴覚障害者のリハビリテーション（教科書 pp.221～223）	復習：授業の範囲をまとめる
2. 成人聴覚障害者のニーズ（教科書 pp.221～223）	復習：授業の範囲をまとめる
3. 障害対策支援：聴覚補償（補聴器①）（教科書 pp.223～228）	復習：授業の範囲をまとめる
4. 障害対策支援：聴覚補償（補聴器②）（教科書 pp.223～228）	復習：授業の範囲をまとめる
5. 障害対策支援：聴覚補償（補助機器・日常生活用具の活用）	復習：授業の範囲をまとめる
6. 障害対策支援：コミュニケーション手段の拡大・代替（教科書 p.228）	復習：授業の範囲をまとめる
7. 障害対策支援：コミュニケーションストラテジー・家族および周囲の対応や配慮の仕方（教科書 pp.229～232）	復習：授業の範囲をまとめる
8. 障害対策支援：障害認識と障害受容への支援(教科書 pp.232～233)	復習：授業の範囲をまとめる
9. 成人聴覚障害者の社会生活の支援①（教科書 pp.234～235）	復習：授業の範囲をまとめる
10. 成人聴覚障害者の社会生活の支援②（教科書 pp.235～237）	復習：授業の範囲をまとめる
11. 成人聴覚障害者の社会生活の支援③（教科書 pp.241～243）	復習：授業の範囲をまとめる
12. 高齢難聴者の支援（教科書 pp.238～241）	復習：授業の範囲をまとめる
13. 成人聴覚障害者の社会資源とその活用（教科書 pp.382～386）	復習：授業の範囲をまとめる
14. 特異的な聴覚障害・重複障害（教科書 pp.342～354）	復習：授業の範囲をまとめる
定 期 試 験	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	城間・鈴木・小渕（編）	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版	医学書院	2021
参考図書	山田弘幸（編著）	「言語聴覚療法シリーズ6　改訂　聴覚障害Ⅱ—臨床編」	健帛社	2008
	日本聴能言語士協会講習会実行委員会	「アドバンス/コミュニケーション障害の臨床 第7巻 聴覚障害」	協同医書	2002
	小川郁（監修）	「ゼロから始める補聴器診療」	中外医学社	2016

履修要件等	成人聴覚障害診断学を履修済みであること		
オープンな 教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：10～13：00

科目№	SHD08-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	視覚聴覚二重障害学（含演習）	担当教員 E-Mail	馬屋原　邦博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、視覚聴覚二重障害者の障害、コミュニケーション、支援方法について授業を行う。
授業内容の要約	視覚聴覚二重障害による特有のニーズを理解し、視覚聴覚二重障害者（児）のコミュニケーションと社会参加を支援する方法を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 視覚聴覚二重障害の障害原因について理解できる 2. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーションを含む生活上の困難とその軽減対策が理解できる 3. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段について理解できる
対面授業の進め方	講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。
遠隔授業の進め方	office365 teams を利用して、講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 視覚聴覚二重障害の定義と視覚聴覚二重障害者の実態（教科書 pp.354～355）	復習：授業の内容をまとめる	
2. 視覚について（視力障害、視野障害など）	復習：授業の内容をまとめる	
3. 視覚聴覚二重障害者の困難（教科書 pp.356～358）	復習：授業の内容をまとめる	
4. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習①（教科書 pp.358～360）	復習：授業の内容をまとめ、実技の復習をする	
5. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習②（教科書 pp.358～360）	復習：授業の内容をまとめ、実技の復習をする	
6. 視覚聴覚二重障害者の社会生活（移動介助体験含む）（教科書 p.361）	復習：授業の内容をまとめ、実技の復習をする	
7. 視覚聴覚二重障害児（教科書 pp.360～361）	復習：授業の内容をまとめる	
定 期 試 験		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	城間・鈴木・小渕（編）	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版	医学書院	2021
参考図書	全国盲ろう者協会	「盲ろう者への通訳・介助」	読書工房	2008
	東京盲ろう者友の会	「指点字ガイドブック」	読書工房	2012

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：10～13：00

科目№	SRM02-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域言語聴覚学	担当教員 E-Mail	和田　英嗣		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション	必修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問の臨床経験のある教員が、その経験を生かして地域リハビリテーションの特徴、様々な障害に対する評価・訓練について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を身につけるため、地域言語聴覚療法について理解し、その中での言語聴覚士の役割を習得する。種々の障害についてSTとしてどのように関わり、評価・訓練・環境調整を行っていくのかを理解する。
学修目標 到達目標	1. 地域言語聴覚療法について理解ができる 2. 地域における連携やリスク管路ができる 3. 種々の障害について評価・訓練の理解ができる
対面授業の進め方	座学と討論を行う。地域言語聴覚療法について解説した後に、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。後半はグループワークを中心とし、最後にグループ発表を行う。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 地域言語聴覚療法とは レポート・発表（テーマ作成）について	地域言語聴覚療法について授業後に復習しノートにまとめる。	
2. 外来における言語聴覚療法	外来における言語聴覚療法について授業後に復習しノートにまとめる。	
3. 通所における言語聴覚療法	通所における言語聴覚療法におけるサービスについて授業後に復習しノートにまとめる。	
4. 入所における言語聴覚療法	入所における言語聴覚療法について授業後に復習しノートにまとめる。	
5. 在宅における言語聴覚療法	在宅における言語聴覚療法について授業後に復習しノートにまとめる。	
6. 神経難病における言語聴覚療法	神経難病における言語聴覚療法についてについて授業後に復習しノートにまとめる。	
7. グループ発表	グループ発表について授業後に復習しノートにまとめる。	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■ 発表　50%	■ レポート　40%	□ 定期試験　%	■ その他　10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	定期試験を実施しないため、レポートの達成度によって成績が判定される。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤田郁代　監修	標準言語聴覚障害学　地域言語聴覚療法学	医学書院	2019
参考図書				
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。			

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 10：40 ～ 12：10

科目№	SCP05-3R	授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子・河野　良平		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床現場にて評価や訓練を行ってきた。その経験を活かして臨床現場に行くまでの基本的な知識や技能を解説する。
授業内容の要約	臨床評価実習で必要となる基礎的な知識・技術が習得できる講義・演習を行う 専門基礎分野についてグループで学習する 言語聴覚療法に関する評価方法を演習しながら習得する
学修目標 到達目標	1. 講義、情報検索、討論、ロールプレイ、演習、必要書類作成等を行う 2. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の立案までが理解できる 3. 臨床評価実習に必要となる基礎的な知識・技術を修得する 4. 社会人・言語聴覚士としての基本的態度、実習・職務に対する意欲を持つ 5. 症例報告書の作成までの経緯が理解できる
対面授業の進め方	学生相互での講義、グループ演習を行う プレゼンを行うためにグループで協力して準備を進めること
遠隔授業の進め方	座学は遠隔授業で実施する。演習は、教室内が密にならないようにして各自で検査の練習を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 臨床評価実習の意義、目的、目標、期間、内容		
2. 実習に際する注意事項確認	医療従事者としての心得を復習	
3. 実習に際する注意事項確認	個人情報保護法、災害時の対応等の復習	
4. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク		
5. 国家試験出題基準の小項目に記載されている用語についての学習	専門用語の解説ノートの作成	
6. 国家試験出題基準の小項目に記載されている用語についての学習	専門用語の解説ノートの作成	
7. 情報収集演習、症例ビデオの解析、検査演習、グループ演習	考察を深め、レポートを作成する	
8. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
9. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
10. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
11. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
12. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
13. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
14. 検査演習	臨床実習に関連する検査の練習	
定期試験（期末レポート）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	訓練プログラムの立案	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート　50　%	□定期試験　%	■その他　50　%
	基準等		グループ発表で用いる資料を評価する		演習態度を評価する

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td>タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td></td><td>※「大阪河﨑リハビリテーション大学
言語聴覚学専攻：実習の手引き」</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">参考図書</td><td>平野哲雄他　他</td><td>言語聴覚療法　臨床マニュアル　改訂第３版</td><td>協同医書出版</td><td>2014</td></tr>
<tr><td>大森孝一　他</td><td>言語聴覚士テキスト　　第３版</td><td>医歯薬出版</td><td>2018</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="4">「臨床基礎実習」の単位取得済みであること。</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">髙橋：1 号館 5 階 第 17 研究室
河野：研究科棟 4 階　第 147 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td>髙橋：毎週火曜日　12：10～13：00
河野：毎週金曜日　12：10～13：00</td></tr>
</table>

科目№	SCP08-3R	授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床評価実習	担当教員 E-Mail	髙橋　泰子　・　言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習	必　修	4　単位	後　期 (160h) 4週間

教員の実務経験と授業内容の関連	5年以上の臨床経験がある言語聴覚士が臨床現場において4週間の指導を行う。
授業内容の要約	これまで学修した専門基礎科目及び専門科目の総復習を行う。その上で、医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を理解し、対象児・者のニード把握とその解決に必要な支援の方法を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 職務上必要な情報の収集・管理方法を修得する 2. 対象児・者について各情報や観察結果から、適切な検査を選択し実習指導者の下に施行できる 3. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の概要を立案できる 4. 他の言語聴覚士および医師をはじめとする関連職種に対して報告書を作成できる
対面授業の進め方	■実習日誌は、実習中毎日作成・提出し実習指導者の校閲・指導を受ける。実習終了時に一括して大学へ提出する ■実習終了時は症例・実習報告レポート等を作成し、指導言語聴覚士および大学に提出する
遠隔授業の進め方	臨床実習前後の指導は遠隔が行うが、臨床実習は臨床現場にて実施する。臨床実習期間の質問等はリモートで行う場合がある。臨床実習後の報告会はリモートで行い、一人6分の発表と4分の質疑応答の計10分間を持ち時間とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
【臨床評価実習】 ・医療・介護・福祉・教育機関において、実習指導者の下に観察・記録・検査・解析・統合を行い、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断する ・短期・長期の訓練目標を設定し、訓練計画の概要を立案する ・言語聴覚士・関連職種に対して報告書を作成し、口頭でも説明する 【臨床評価実習報告会】 ・実習内容の記録、症例報告、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、視聴覚資料を作成し、報告会で発表する ・相互の実習体験を共有し、臨床総合実習の基盤とする	実習前：臨床現場で必要なものを準備する 実習中：観察した症例の記録、不明な点は調べる 実習後：プレゼンテーションの準備	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート　20%	□定期試験　%	■その他　80%
	基準等		症例報告書 実習中の日誌 報告会用のレジュメ		臨床実習指導者による評価 報告会のプレゼン内容

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		※「大阪河﨑リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」		
参考図書	平野哲雄他編著	「言語聴覚療法　臨床マニュアル　改訂第3版」	協同医書出版	2014
	廣瀬肇　監修	「言語聴覚士テキスト　第3版」	医歯薬出版	2018

履修要件等	実習要件2)（履修の手引き参照）を満たさなければ履修できない

オープンな 教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 17 研究室	オフィスアワー	髙橋：毎週火曜日　12：10～13：00